
2006年3月期 事業説明会

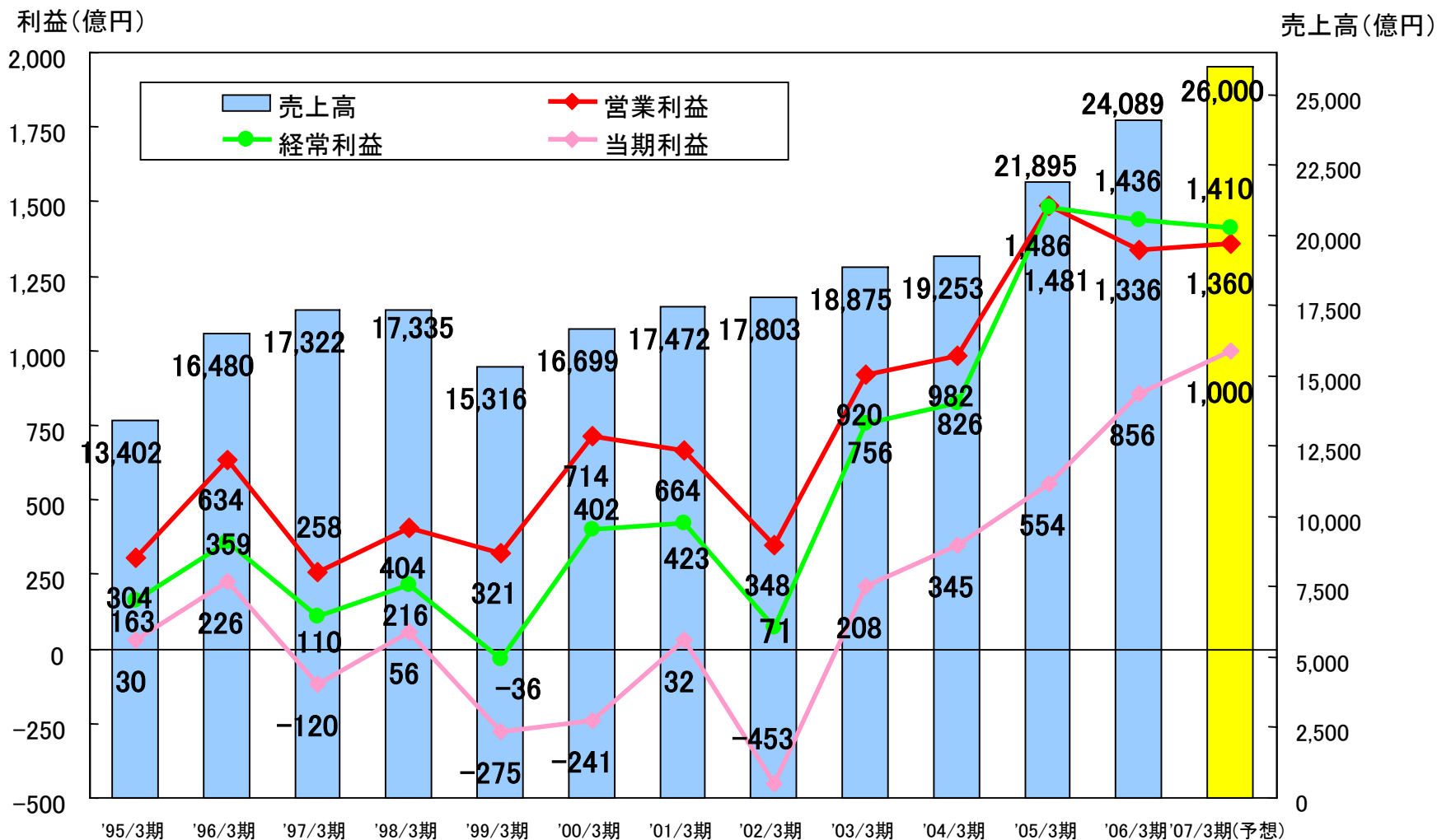
2006年5月31日(水)

(株)三菱ケミカルホールディングス
代表取締役社長 富澤 龍一

本日のアジェンダ

- 2006年3月期 業績について
- 革進－Phase 2 について
 - 成長戦略の推進コンセプト
 - 初年度の進捗

三菱ケミカルホールディングスの連結業績推移



2006年3月期の主要な施策

1. 三菱ケミカルホールディングスの設立

- ▶ 経営戦略加速に向けたグループ経営体制の整備

2. 事業の選択と集中、および主要投資案件の決定

3. R&D基盤強化と新規事業創出に向けた重点投資

- ▶ 研究所の集約・大型化(21→7)と人材育成の強化
- ▶ 重点戦略分野プロジェクトの更なる強化
(固体照明・自動車用ポリマー・ディスプレイ・非枯渇資源・創薬支援)
- ▶ 長期展望の検討着手

本日のアジェンダ

- 2006年3月期 業績について
- **革進－Phase 2 について**
 - **成長戦略の推進コンセプト**
 - 初年度の進捗

革進－Phase 2 成長戦略の推進コンセプト

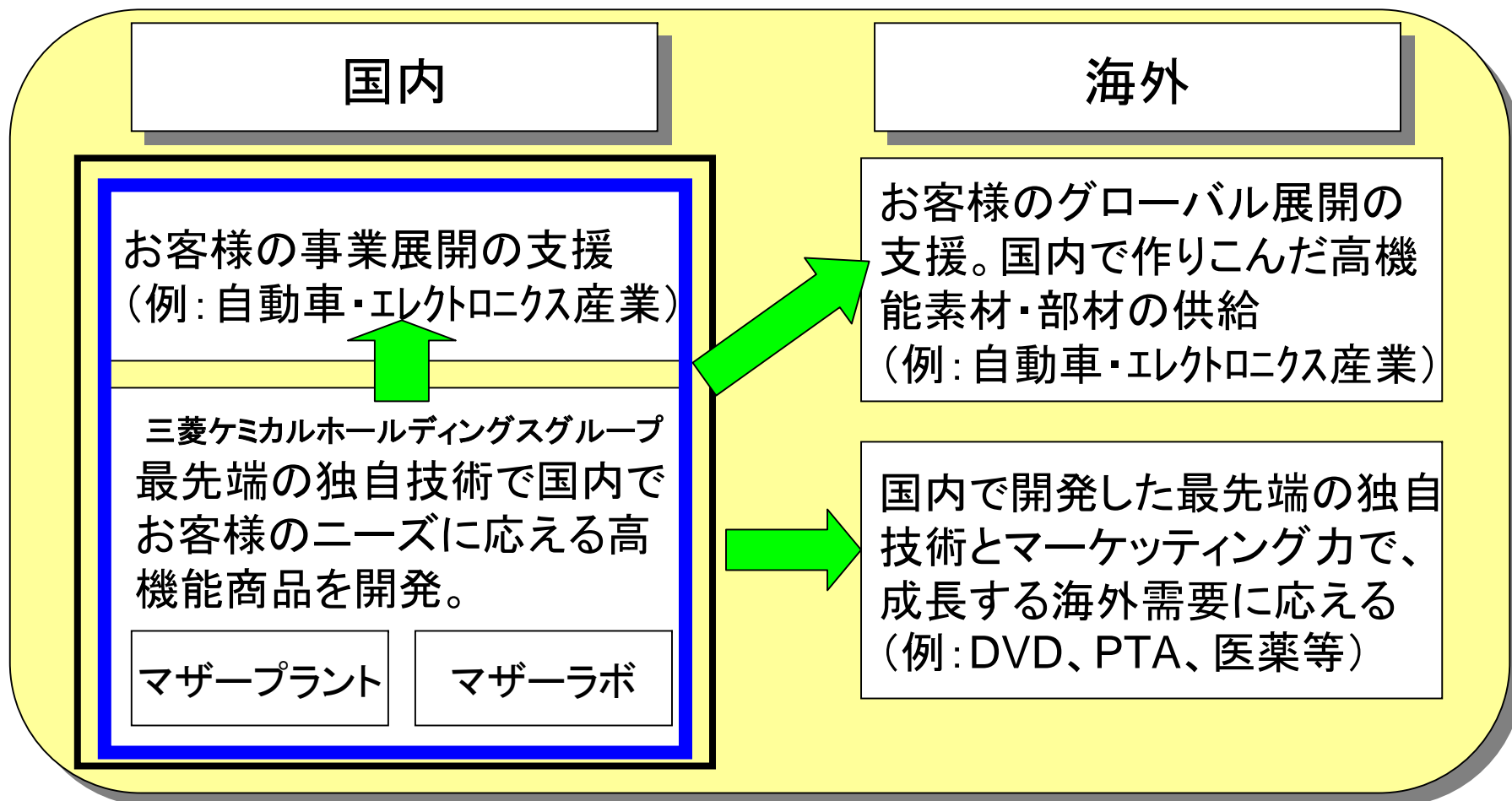
革進し、成長し続ける企業グループ

- ▶ ポートフォリオ改革の断行
- ▶ 成長の源泉となる「技術」・「事業」競争力の強化
 - ・ マザーラボ、マザープラントの深化・強化
 - ・ 新商品化率の向上

これを基盤としたグローバル市場でのプレゼンス拡大

- ・ お客様にトップランナーになっていただくための支援
- ・ 事業の独自グローバル展開

グローバル展開の基本戦略



マザーラボ : マーケットの多様なニーズを先取りして、競争優位な技術群で、革新的な製品開発を行なうラボ
マザープラント : 製品に関する要望・生産上の課題を受け入れ、常に競争優位な製造技術を産み出し、実証する試作/本格プラント

マザーラボの強化・深化

Mother Laboratories

横浜



筑波



四日市



技術の
ブラックボックス化

独創性ある
複合化技術

戦略的特許化

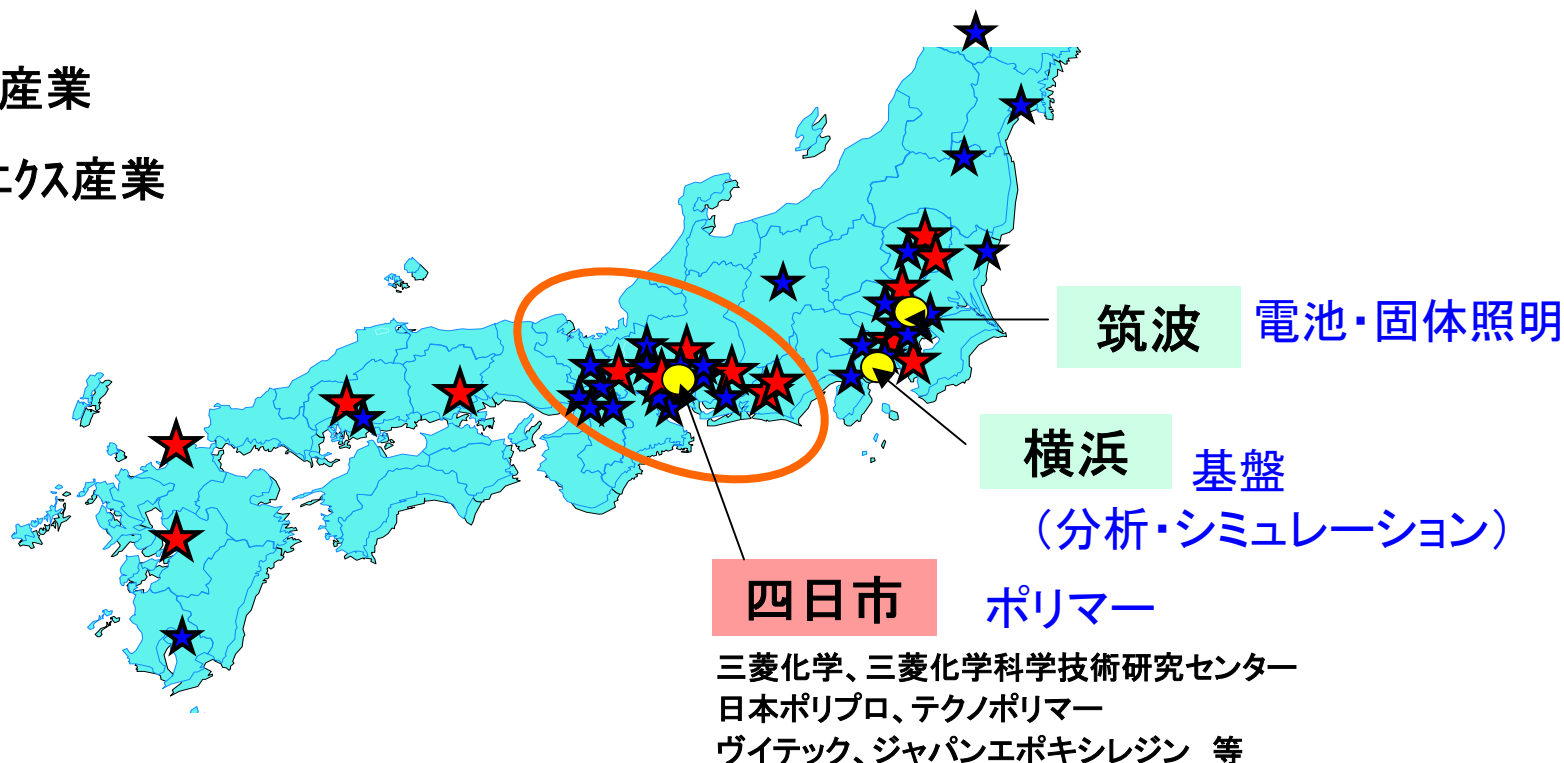
マーケットの多様なニーズを先取りし、競争優位な技術群で、革新的な製品開発を行なう

カスタマー・ラボ(四日市未来創造館)の新設

お客様の近くで一緒に考え、共同で開発することにより
イノベーションをおこす

★ : 自動車産業

★ : エレクトロニクス産業

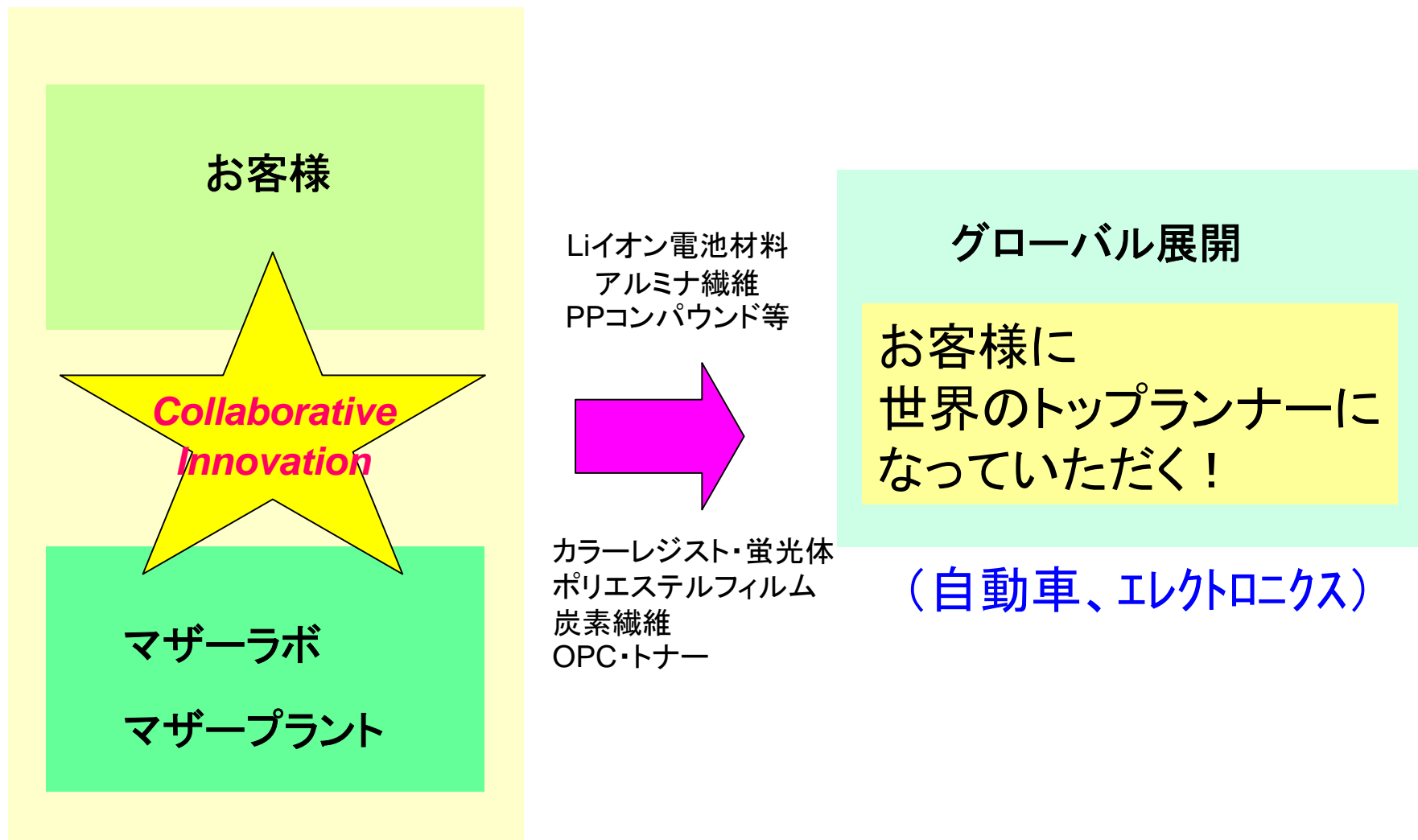


マザープラントの強化・深化

- 次世代・次々世代製品製造への迅速な対応
- お客様と擦りあわせた高度な技術の展開

事業の例	マザープラント	技術
光記録メディア	シンガポール* 水島 <small>*マザーラボ(筑波)の機能の一部</small>	常に世界初の新規メディア量産化技術確立 スタンパー製造
OPC	小田原	カラー化・高画質化等最新技術の確立 ユーザーと一体化した高度な要求性能への対応
リチウム電池材料	四日市	高度な擦りあわせ技術の結集
ポリプロピレン	鹿島・五井・水島	高度に設計されたポリマーの高度な製造技術確立 (ポリマー設計・コンパウンディング力)
ポリカーボネート	黒崎	独自のDPC・溶融法PCR製造プロセス

お客様のグローバル展開を支援する



PP コンパウンドのグローバル展開

マザーラボ
四日市

カスタマー・ラボ
四日市

高度なポリマー設計技術
コンパウンディング技術

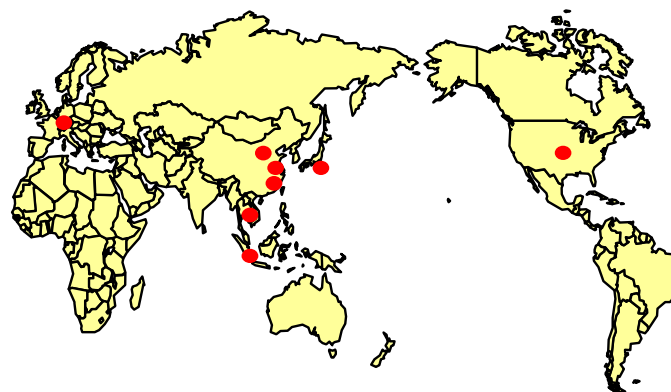
マザープラント群

ニートPP
コンパウンディング

お客様と擦りあわされた
高度な製造技術

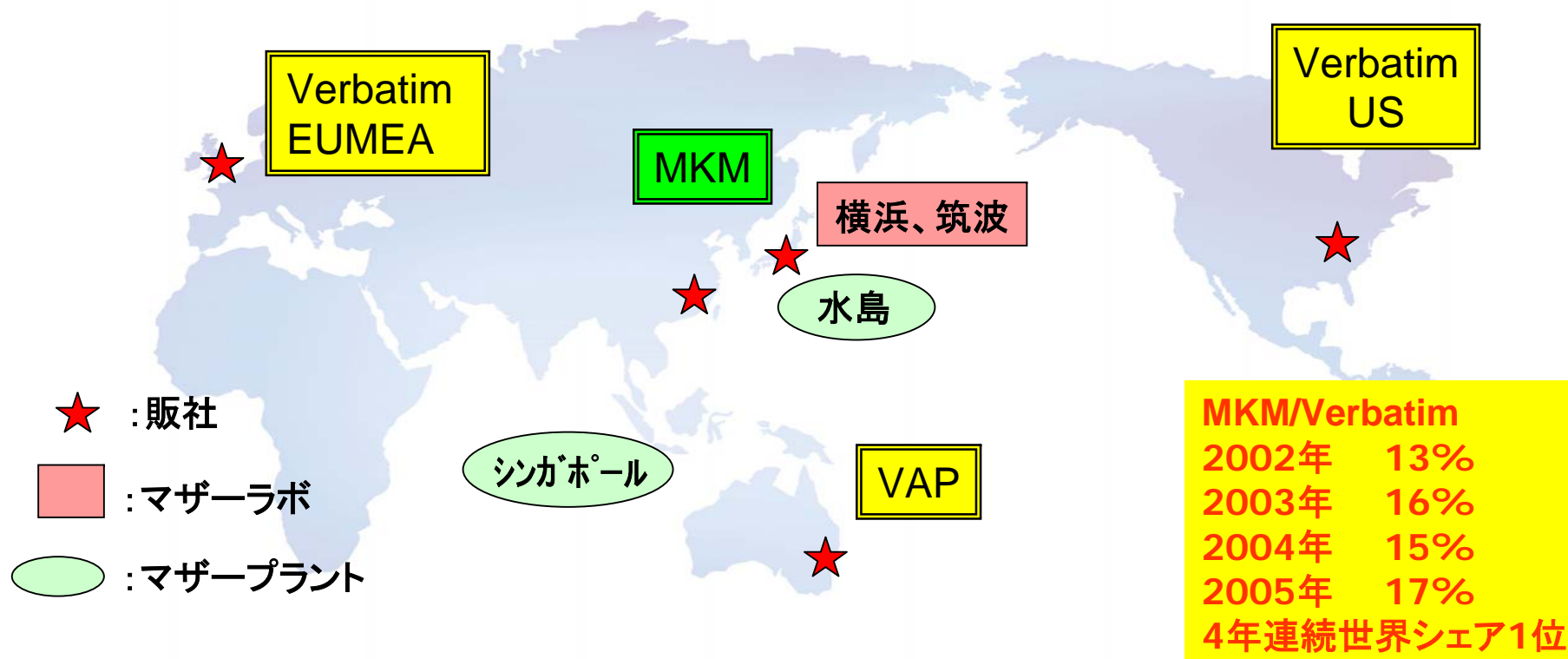
国内展開

グローバル展開
Mytex



独自技術によるグローバル展開(1)

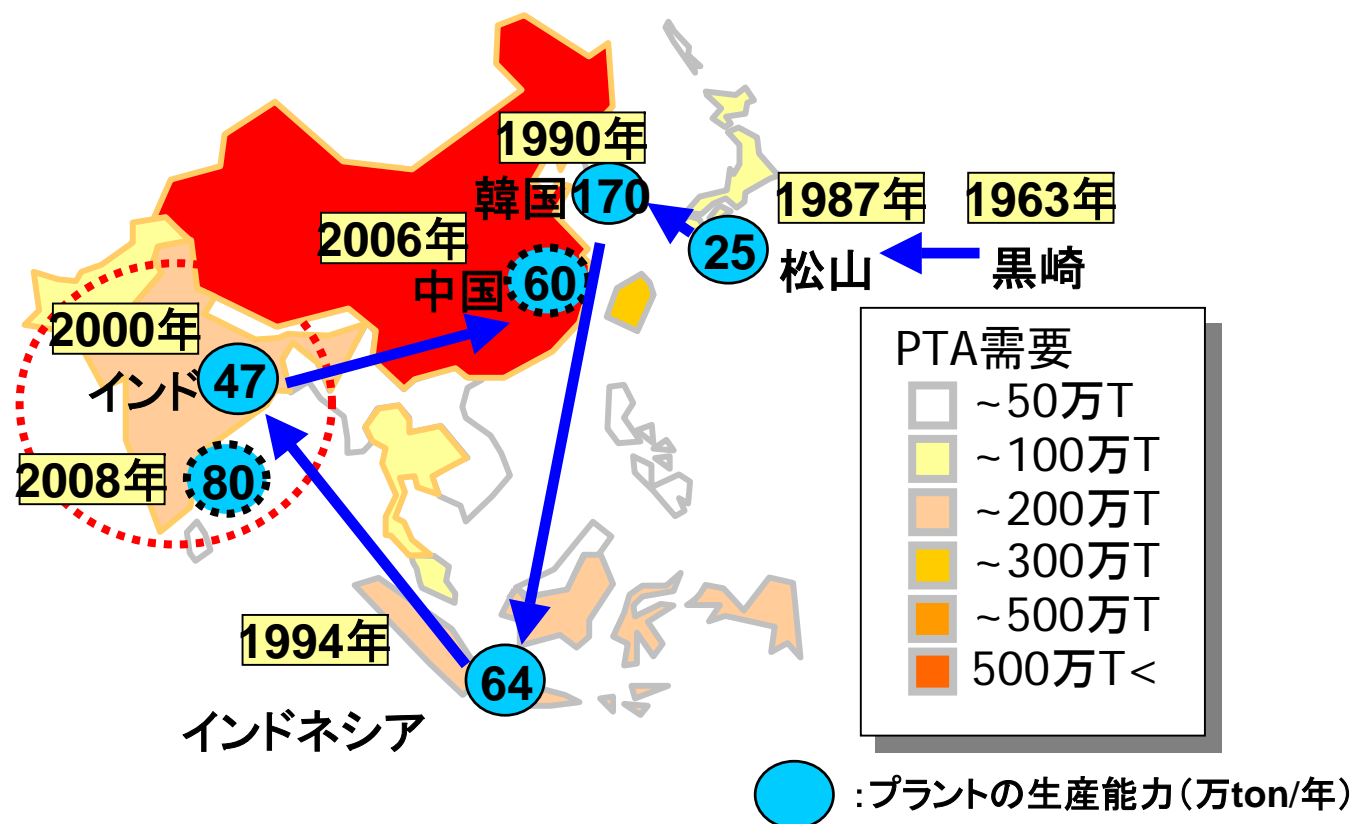
DVD: 誰よりも速い独自技術の開発・マーケティングカ・ブランドカ



独自技術によるグローバル展開(2)

テレフタル酸： 成長するアジア市場において事業拡充

圧倒的世界一技術・顧客開拓力・海外事業展開力

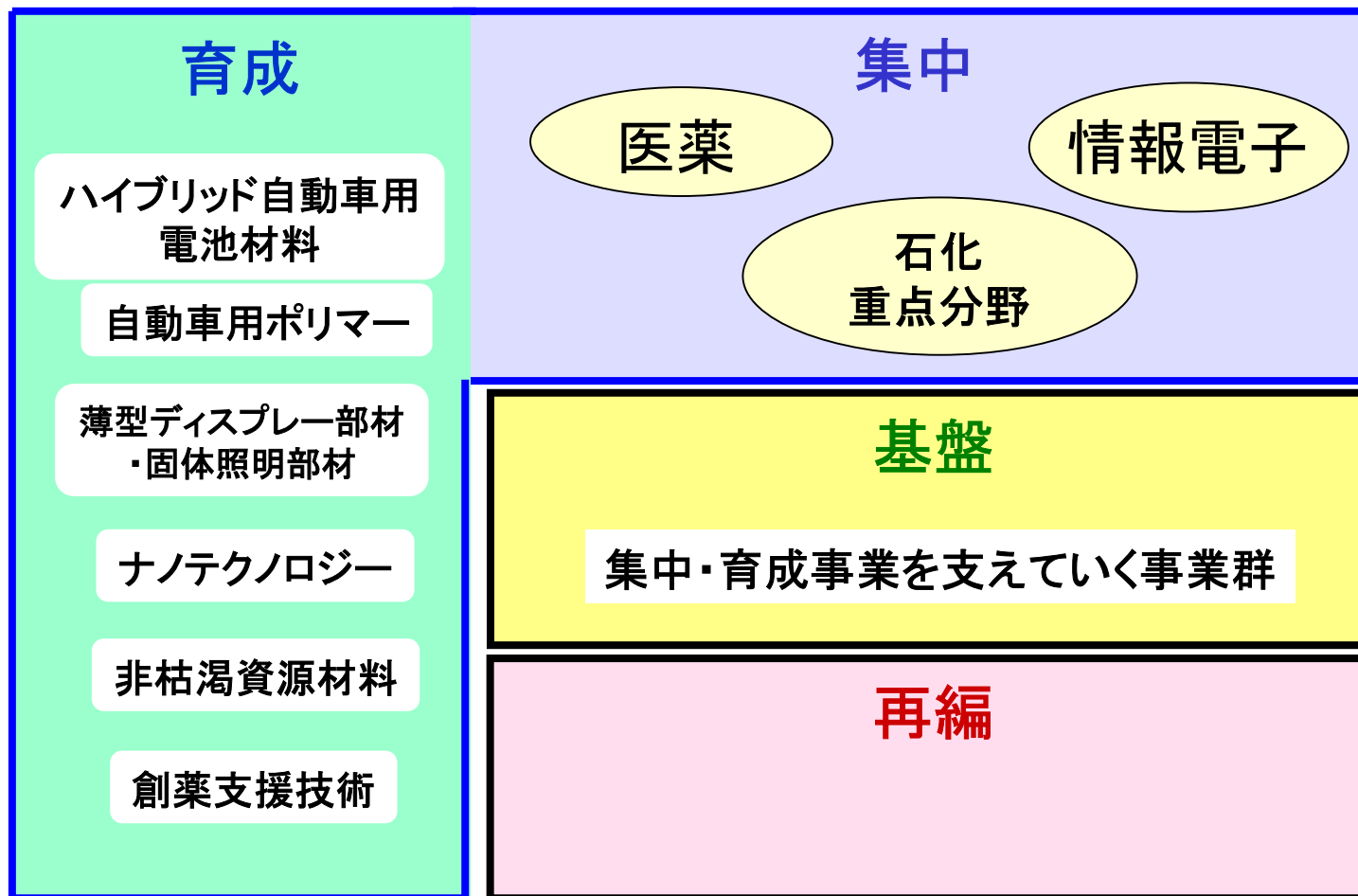


本日のアジェンダ

- 2006年3月期 業績について
- **革進－Phase 2** について
 - 成長戦略の推進コンセプト
 - **初年度の進捗**

革進—Phase 2 事業ポートフォリオ

事業の選択と重点的資源投入



事業ポートフォリオ改革の進捗

(2005年度・着手/意思決定)

		主な案件	
		石化	機能商品
能力 増強・ 効率化	国内	ポリプロピレン(鹿島) ポリカーボネート(黒崎) エチレン(水島)	四日市 カスタマーラボ BD(水島)、重合トナー 液晶向けディスプレイ部材 自動車用アルミナ繊維
	海外	高純度テレフタル酸(インド) ポリカーボネート、BPA(中国):FS段階	HD DVD(シンガポール)、 OPC(米国・シンガポール)、 エアバッグ用機能性樹脂(米) (2006. 4月)
買収		PPコンパウンドMytex社	ジャパンエポキシレジン100%化
譲渡		ダイヤニトリックス マイノリティ化	
撤退		ソフトアルキルベンゼン、 ユカセラヤ(SM)、メラミン	

設備投資・投融資の進捗 (2005年度・着手/意思決定)

(億円)

		3カ年計画	進捗 (%)	主な案件
石化		1,500	73%	高純度テレフタル酸増設(インド2期) ポリカーボネート増設(黒崎) ポリプロピレン増設(鹿島)、PPコンパウンド買収(Mytex) エチレン分解炉増強(水島)
機能 商品	機能化学	1,250	34%	情報電子 青色レーザー対応光ディスク、 OPC増設(米国・シンガポール)、重合トナー 液晶向け材料・部材増設 (ポリエステルフィルム、カラーレジスト、蛍光体)、JER100%化 自動車 アルミナ繊維MAF新設
	機能材料			
ヘルスケア		400	20%	医薬・診断検査等の設備更新
サービス・コーポレート		450	30%	四日市カスタマーラボ* <small>*集中事業をサポートする</small>
合計		3,600	50%	

石化セグメント事業説明会

2006年5月31日(水)

三菱化学株式会社

常務執行役員 新國 時生

内容

- 革進-Phase2 石化セグメント基本方針
- 石化セグメントの全体戦略
- 各事業の戦略とトピックス
 - ポリマー事業
 - モノマー事業
 - オレフィン・アロマ
- まとめ

～ 質疑応答 ～

内容

- 革進-Phase2 石化セグメント基本方針
- 石化セグメントの全体戦略
- 各事業の戦略とトピックス
 - ポリマー事業
 - モノマー事業
 - オレフィン・アロマ
- まとめ

～ 質疑応答 ～

革進-Phase2 石化セグメント方針

石化セグメントは**人財**と**技術開発**を
ベースに、

「**集中事業のグローバル展開**」と

「**国内基盤事業の維持強化**」

によって**利益の増大**を図る。

革進-Phase2 石化セグメント基本方針(1)

- 集中事業のグローバル展開
成長するアジア市場で当社の強みを生かした展開

集中事業	投資候補
高純度テレフタル酸	アジア増設
ポリプロピレン(PP)	国内外増設 コンパウンド4極体制確立
機能性樹脂	軟質系コンパウンド世界展開
ポリカーボネート(PC)チェーン	国内外増設
1,4-BD / PTMG	アジア新設

(事業性・タイミング等を勘案して選択)

革進-Phase2 石化セグメント基本方針(2)

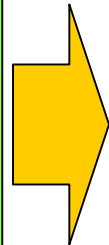
- 国内基盤事業の維持強化
鹿島・水島をアジア有数の石化コンプレックスに

狙い

必要溜分に特化した増産
(プロピレン・ベンゼン)

原料の多様化

コンプレックス全体の
付加価値向上



施策

コンビナート他社との協業
(ex. 鹿島 hidrocarbon PJ)

コンプレックス運営のトータル
生産最適化システム構築

新規オレフィン・アロマ製造
技術の開発

内容

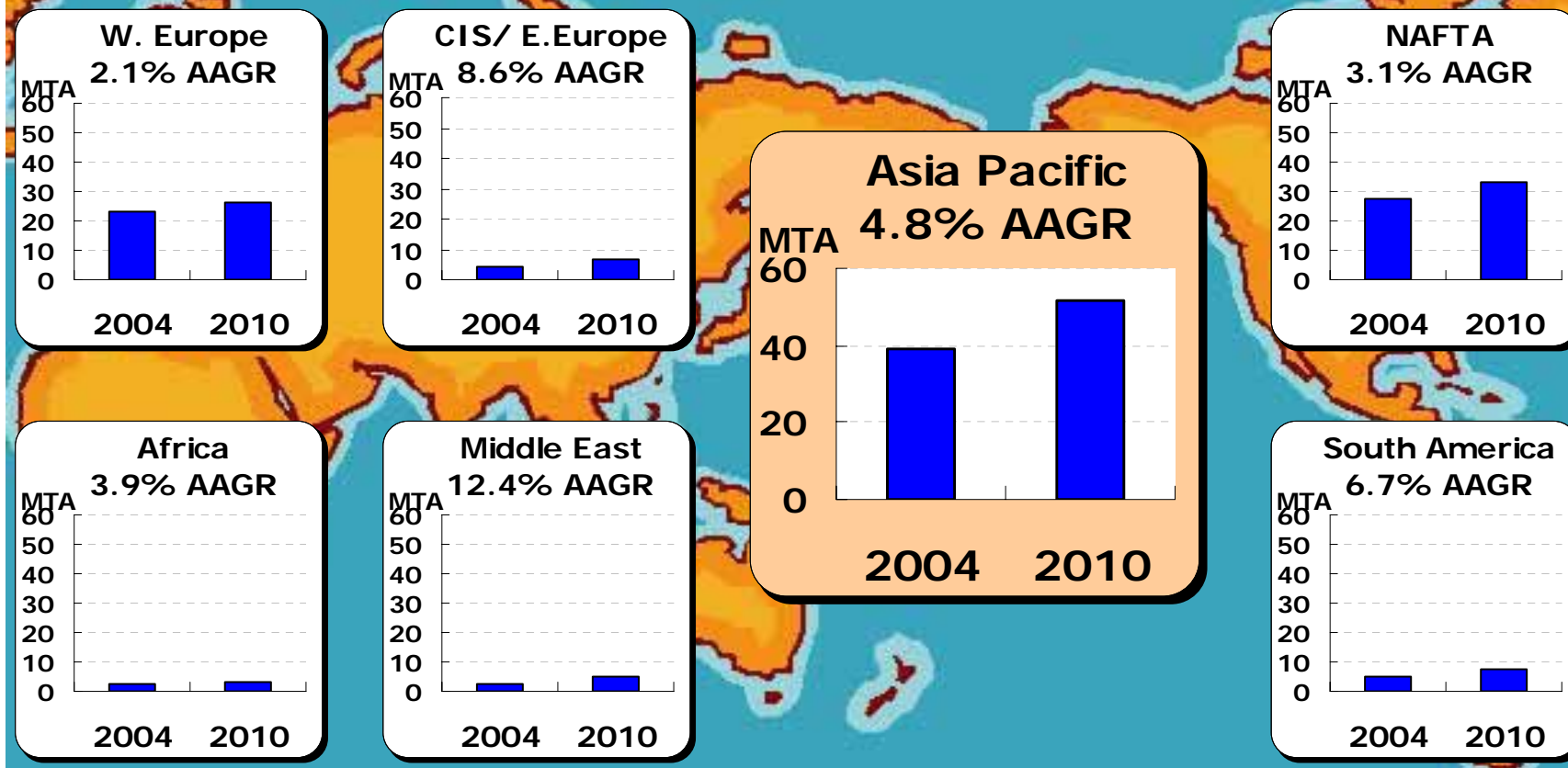
- 革進-Phase2 石化セグメント基本方針
- 石化セグメントの全体戦略
- 各事業の戦略とトピックス
 - ポリマー事業
 - モノマー事業
 - オレフィン・アロマ
- まとめ

～ 質疑応答 ～

アジア市場での成長機会を追求する

- 急拡大を続ける巨大な「高成長市場」

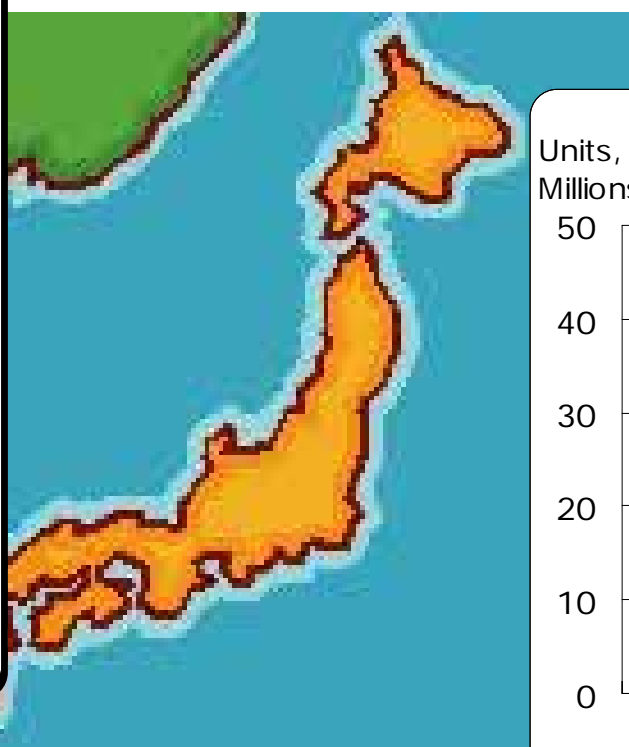
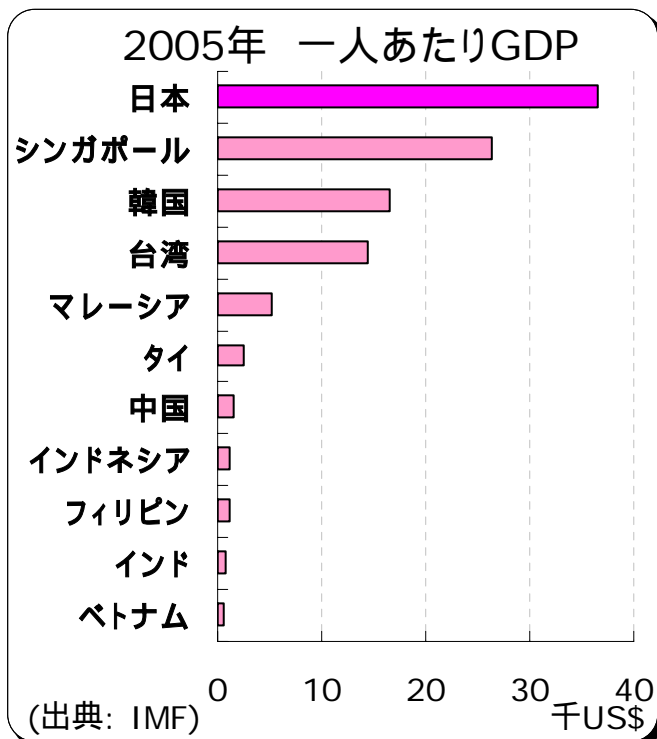
エチレン系誘導品の需要動向(エチレン換算)



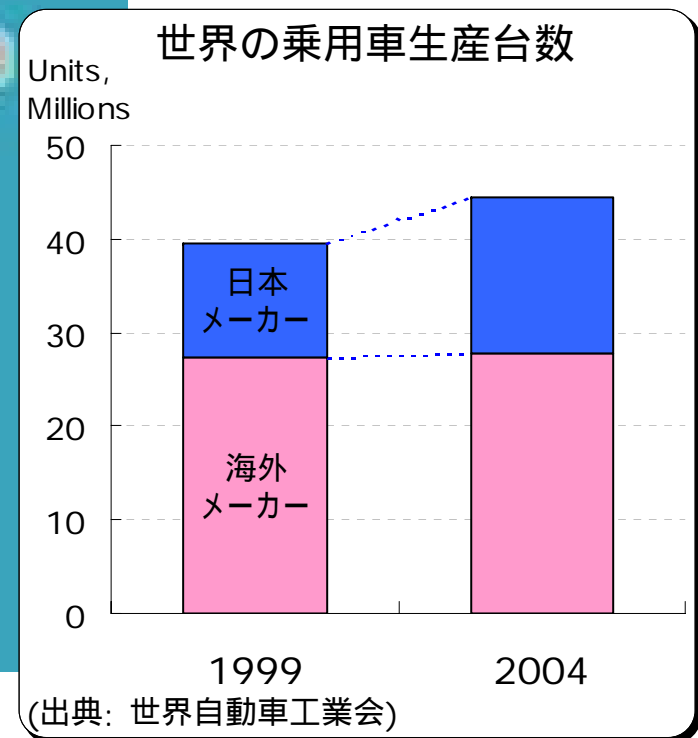
日本市場では質的成長に注力する

- 世界でトップランナーのお客様が日本には沢山いる

経済規模・集積度



技術的先進度



競争力源泉となる独自の強みは・・・

先端技術・市場形成力で
世界を主導する「お客様」



お客様と共に進化しつづける
「技術力・マーケティング力」



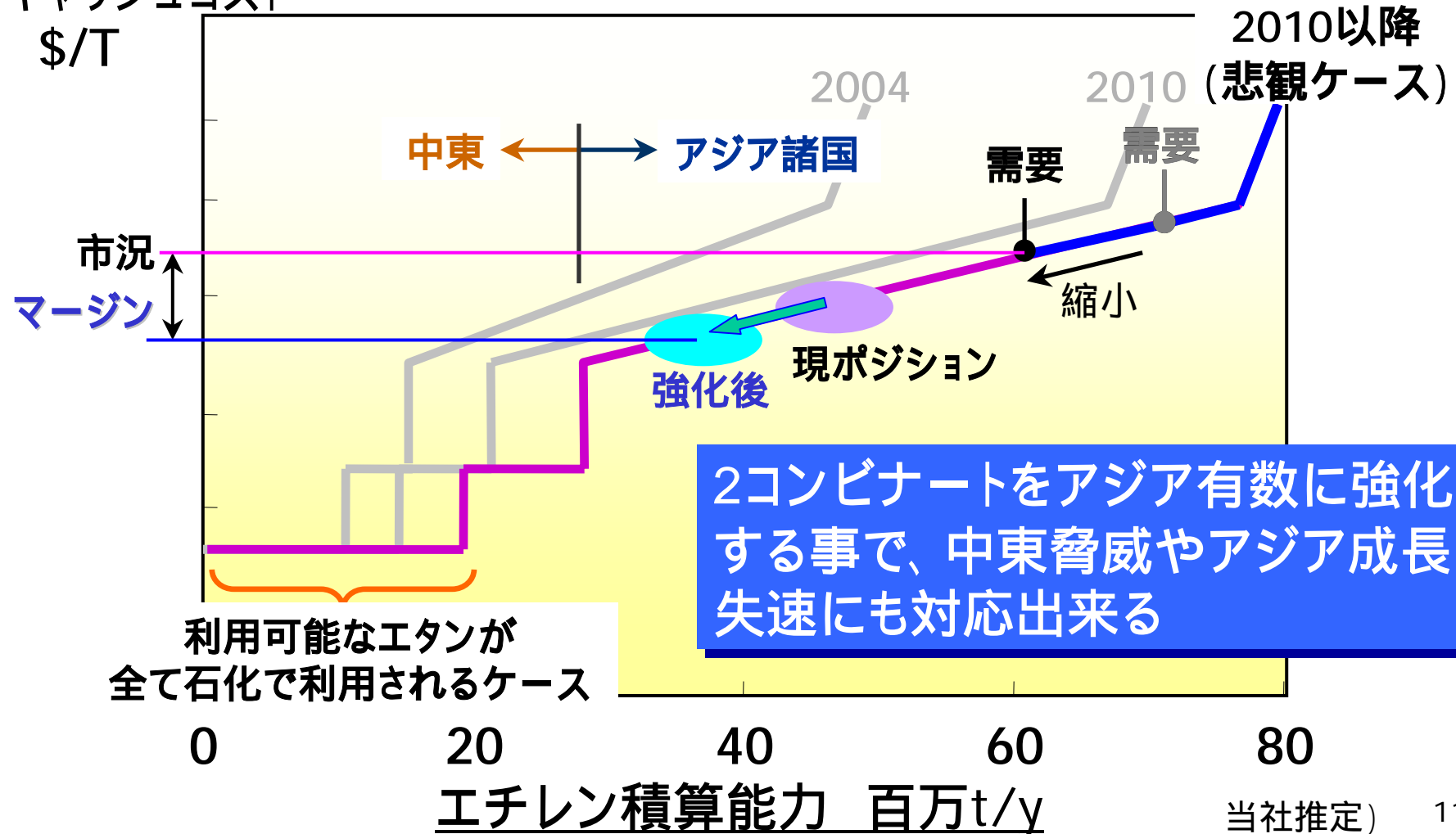
2コンビナートを核とした「事業資産」



中東からの脅威に対して

アジア・中東でのエチレン競争力

エチレン
キャッシュコスト
\$/T



強みを生かし お客様とともに成長する

- コスト競争力を更に強化して、ベースとなる収益力を確保
- 世界をリードするお客様からの要望に応じて、幅広い製品群の先進性を常にkeep
- 日本で培われたビジネスノウハウ・技術を生かせる事業群をグローバルに展開



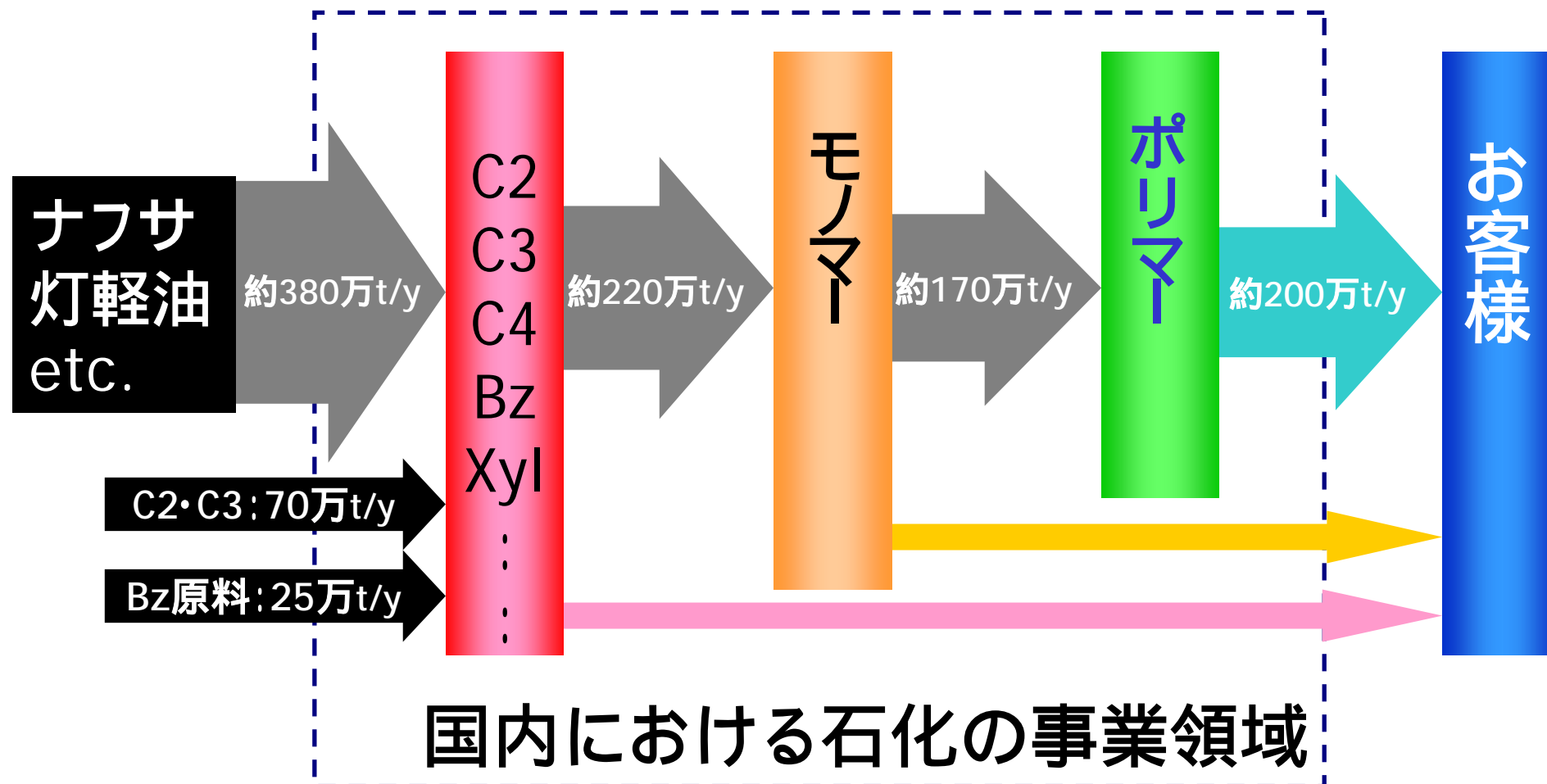
内容

- 革進-Phase2 石化セグメント基本方針
- 石化セグメントの全体戦略
- **各事業の戦略とトピックス**
 - **ポリマー事業**
 - **モノマー事業**
 - **オレフィン・アロマ**
- まとめ

～ 質疑応答 ～

ポリマー事業の位置付けと役割

- 当社石化の国内売上高の約60%がポリマー

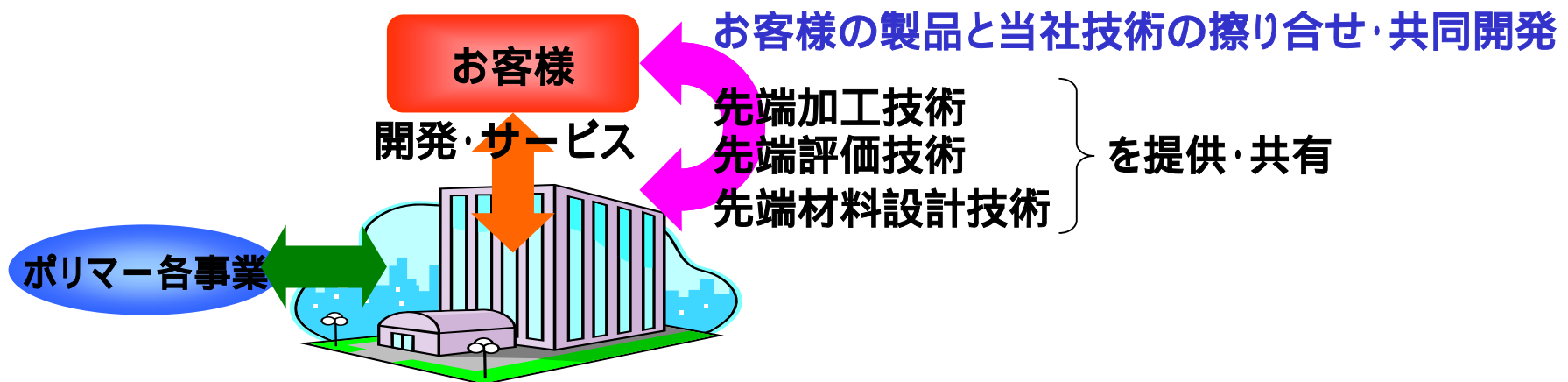


ポリマー事業の競争力源泉

- MCC独自の発想と技術で
 - 世界の誰よりも早く
- お客様の先端ニーズに答え続け、常に新たなステージへ進歩

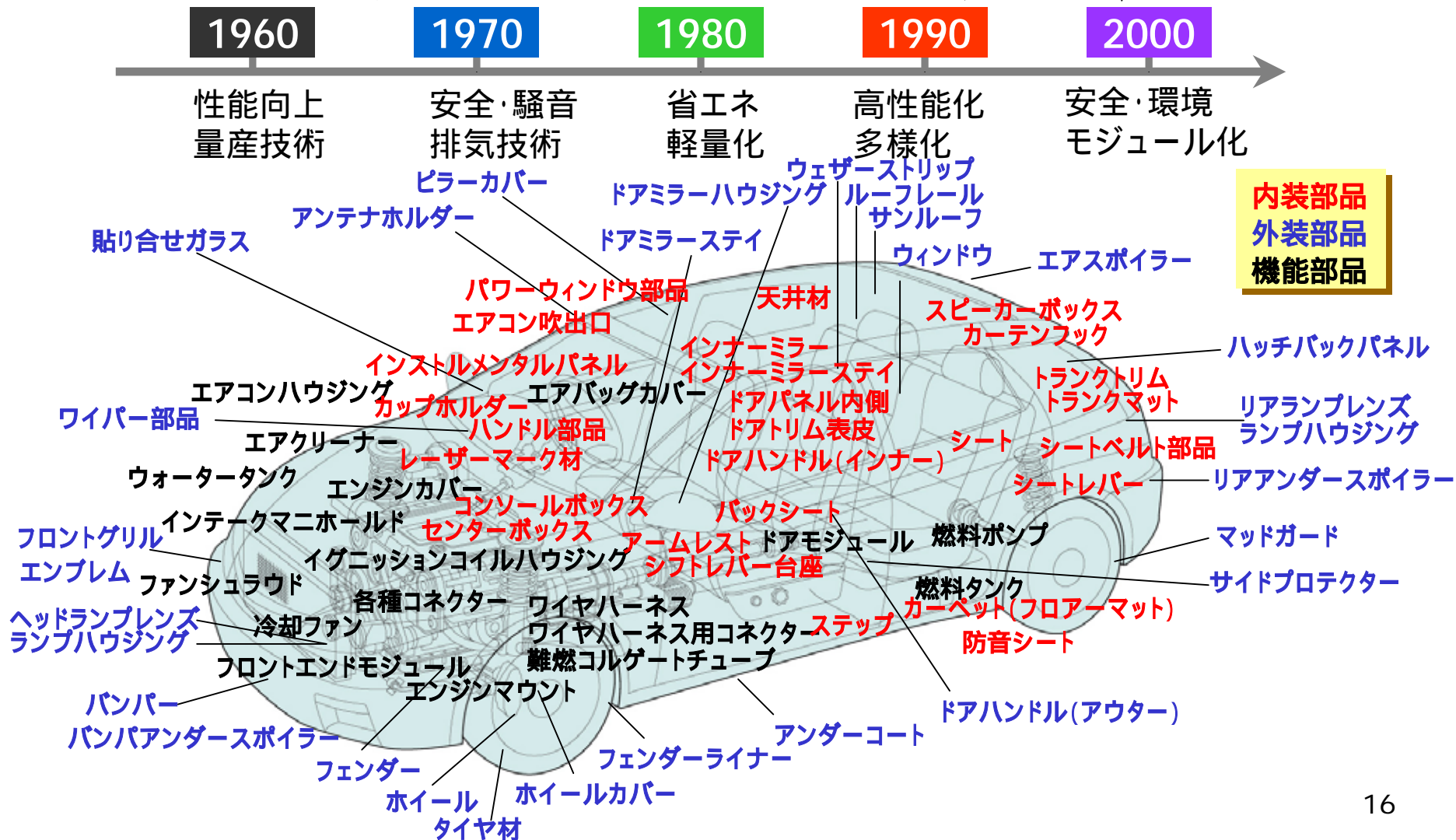
技術・マーケティング力に
更に磨きをかけ
グローバル競争を
リードする

カスタマーラボ；四日市未来創造館

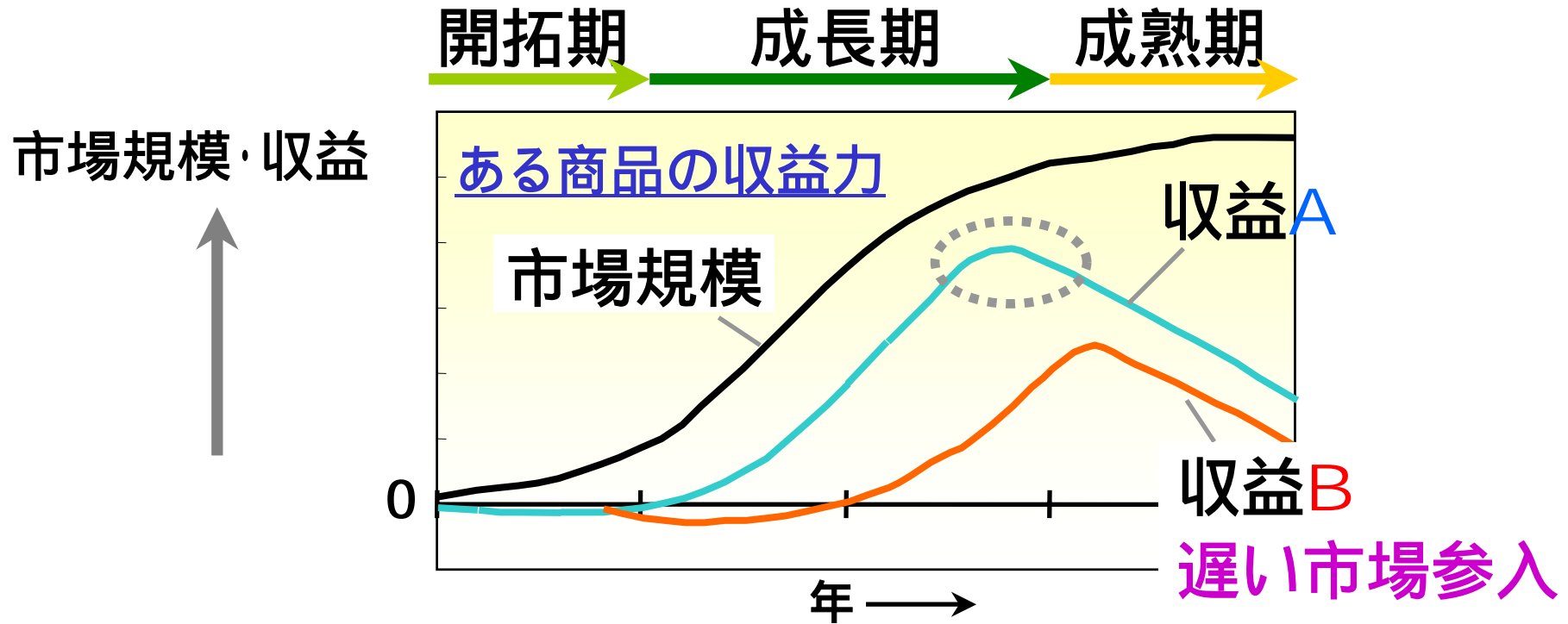


当社が得意とするところ

● 日本の先端ニーズと共に歩む・・・例えば、自動車分野



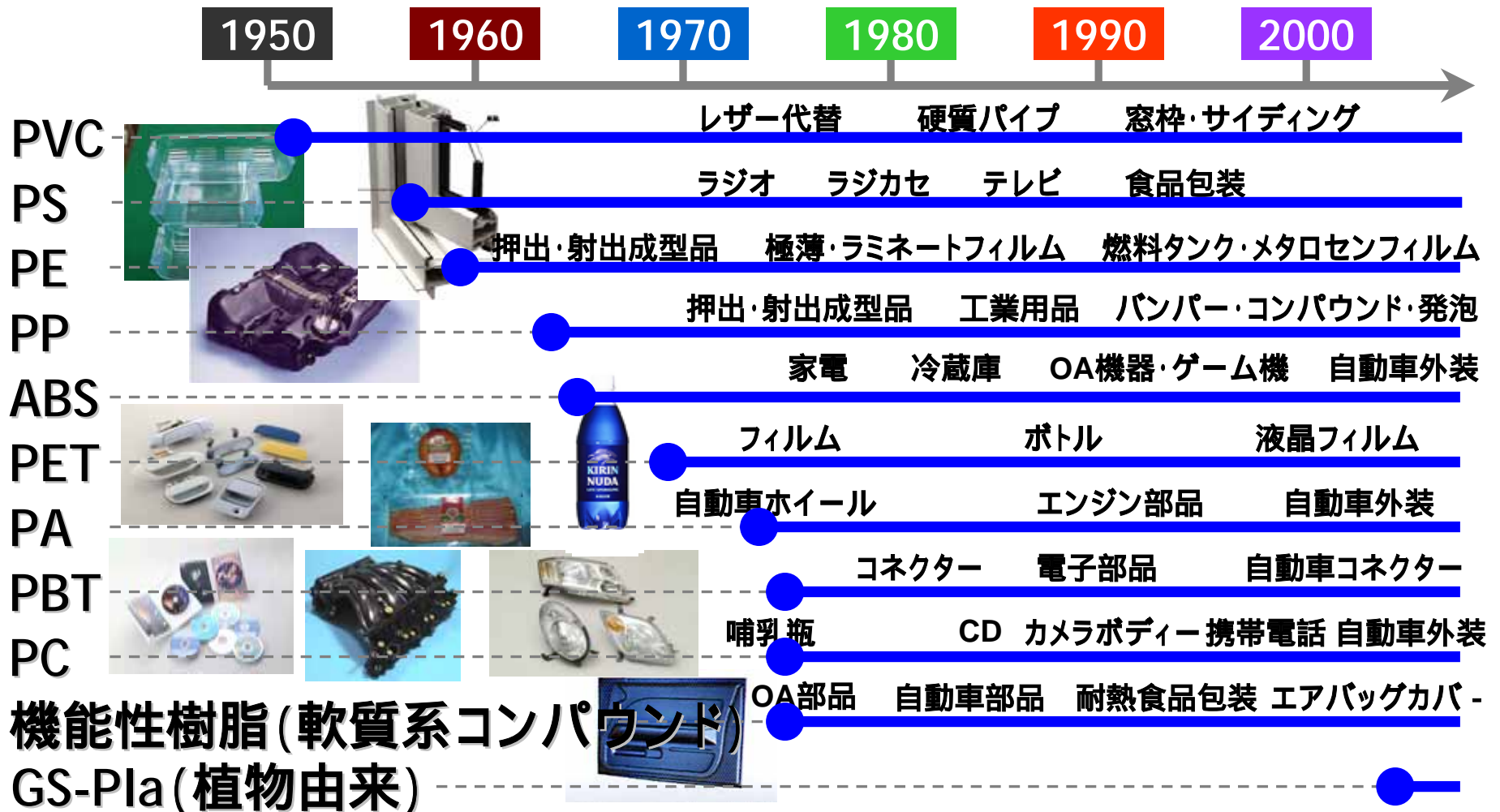
何故、先端ニーズにこだわるのか？



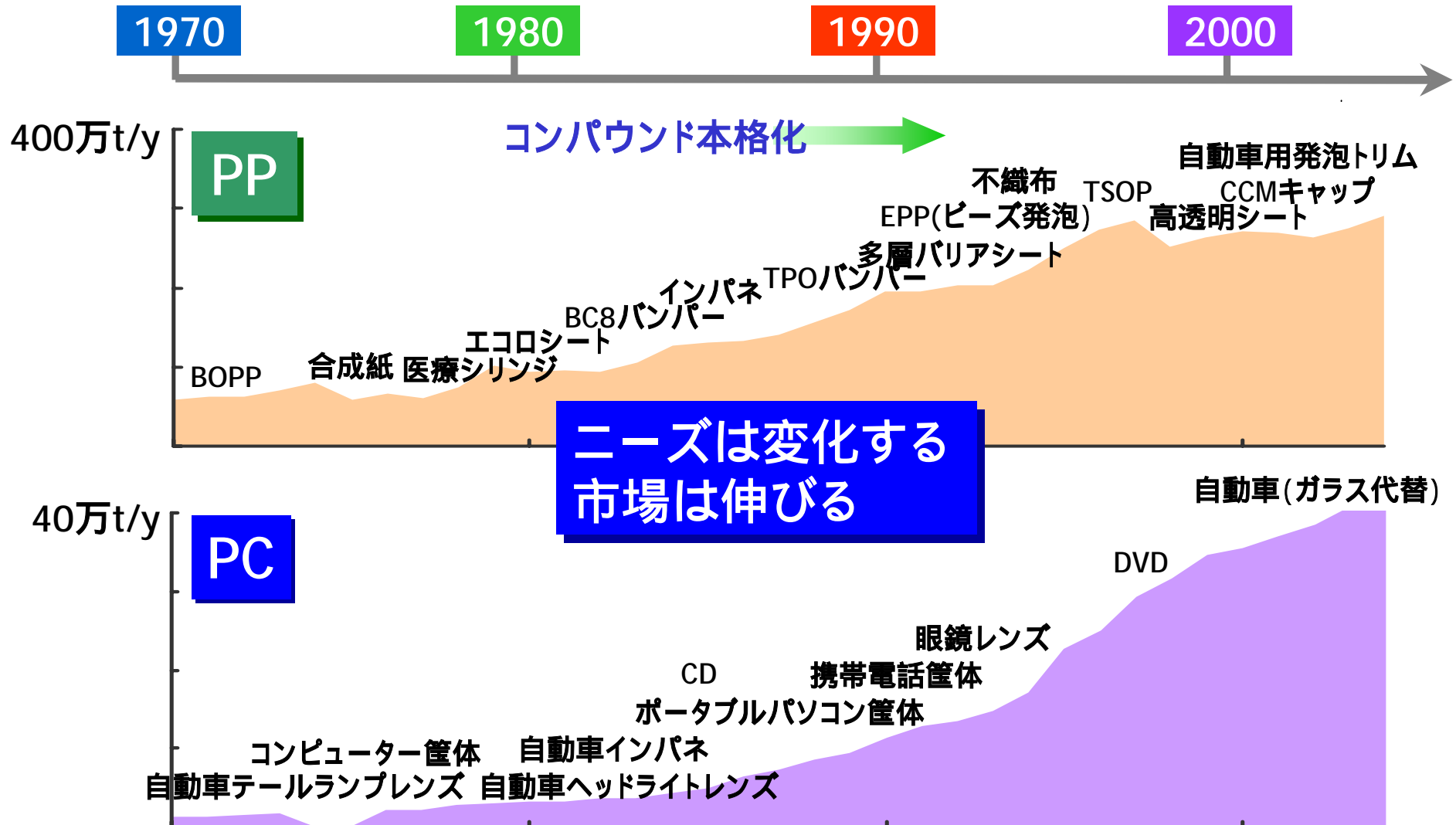
- ポリマーの収益力にはピークが存在する
次世代の主力を確実に育てておく
- 市場参入が遅れるとピークを取り逃がす
有望市場を誰よりも早く開拓する

『素材・製品の新陳代謝』を見据える

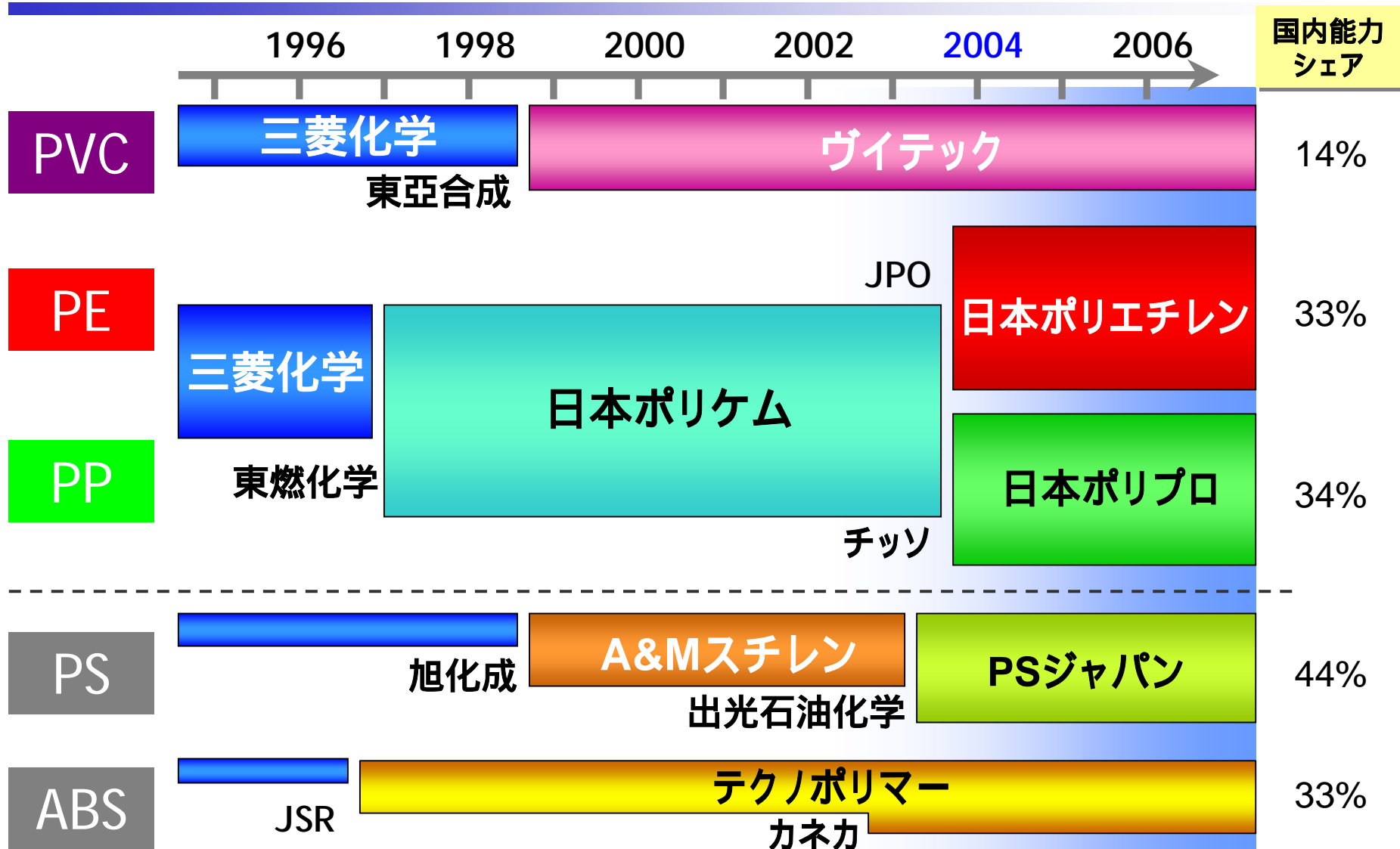
- 当社は次々と生まれる先端ニーズを掴み続ける



国内生産規模と先端ニーズの変遷

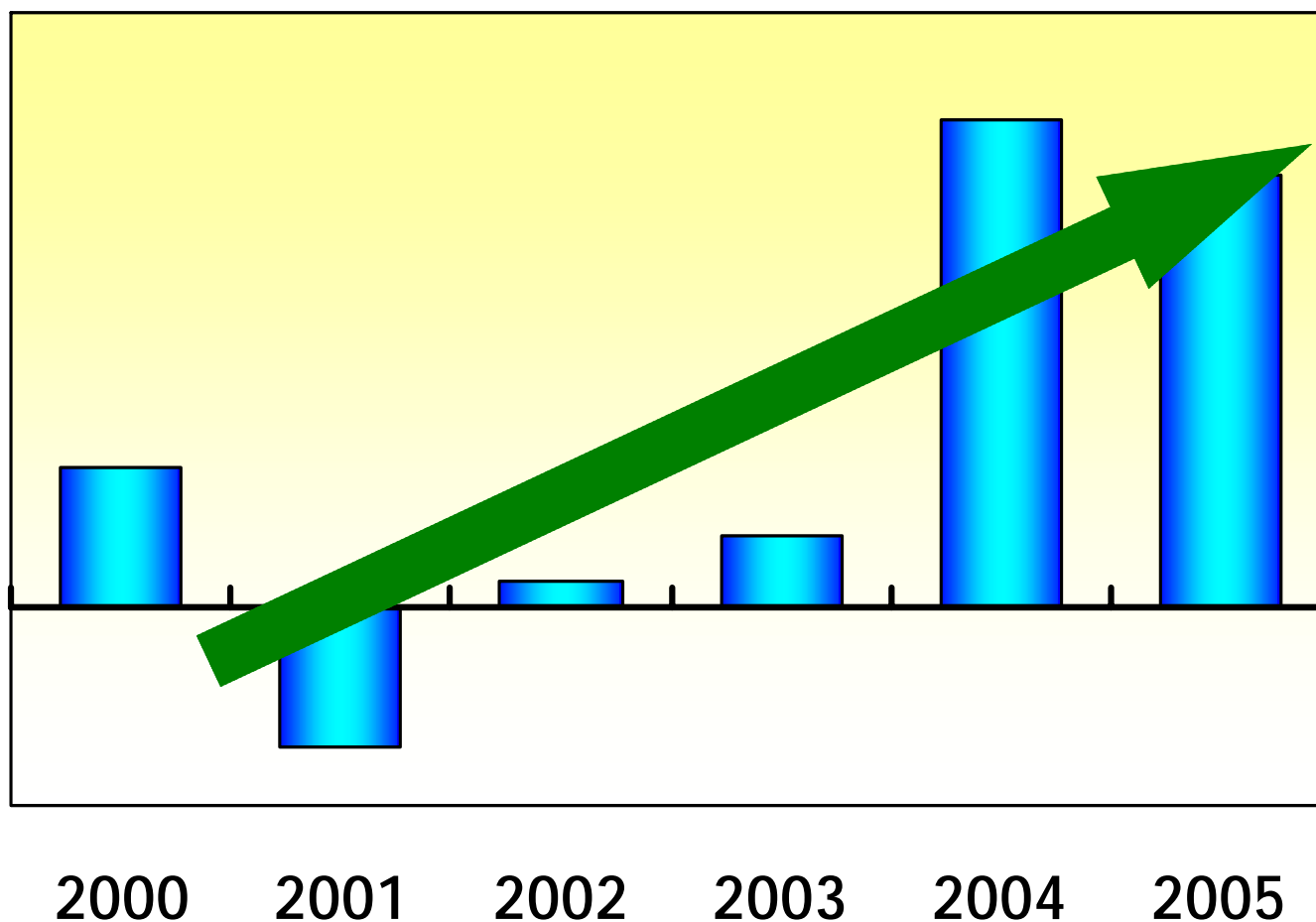


個々のポリマー事業強化 『事業再編』



『事業再編』で良い結果が出て来ている

- ポリマー事業の連結営業利益の推移



個々のポリマー事業強化 『成長への投資』

- 体質強化の次ステップとして、革進-Phase2で投資決定

- PP鹿島30万t新系列増設
- 黒崎・中国PCチェーン計画
- 自動車用コンパウンド 世界展開強化
 - PPコンパウンド自社展開(EM社の持分買取)
 - 機能性樹脂(軟質系コンパウンド) 米国拠点増強

『個々のポリマー事業強化』は今後も継続

ポリマー事業戦略は次のステージへ

個々のポリマー事業強化

ポリマー事業の総合力

従来 → 今後

ポリマー本部設置

"スタンドアローン"から、「ネットワーク」へ

"単眼"から、「複眼」へ

お客さまにとってより魅力的になる為に...



複合製品・技術を
パッケージ提案し
付加価値創造



output

ニーズ吸収と
技術研鑽のサイクル
を強化する仕組み

材料代替サイクルを
Gr内で吸収する
仕組み

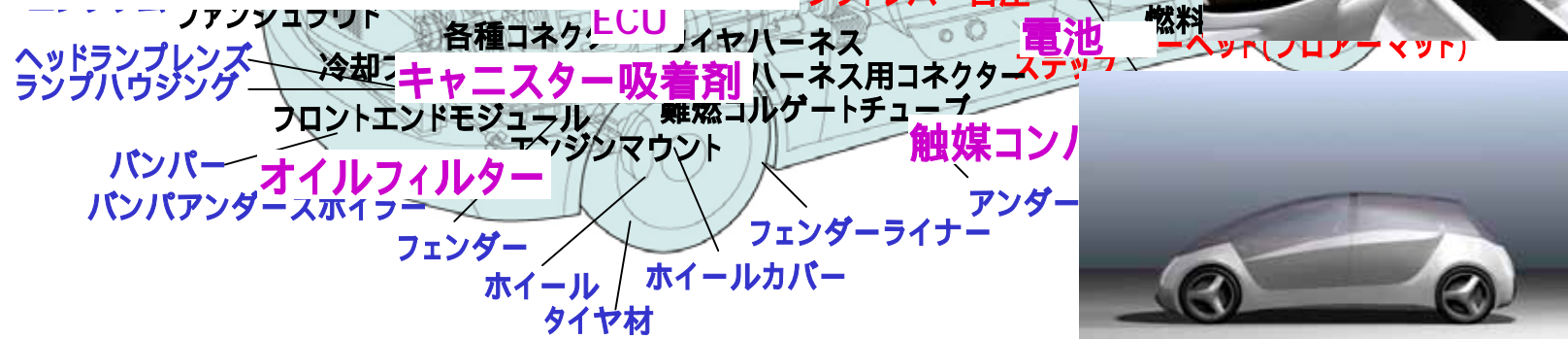
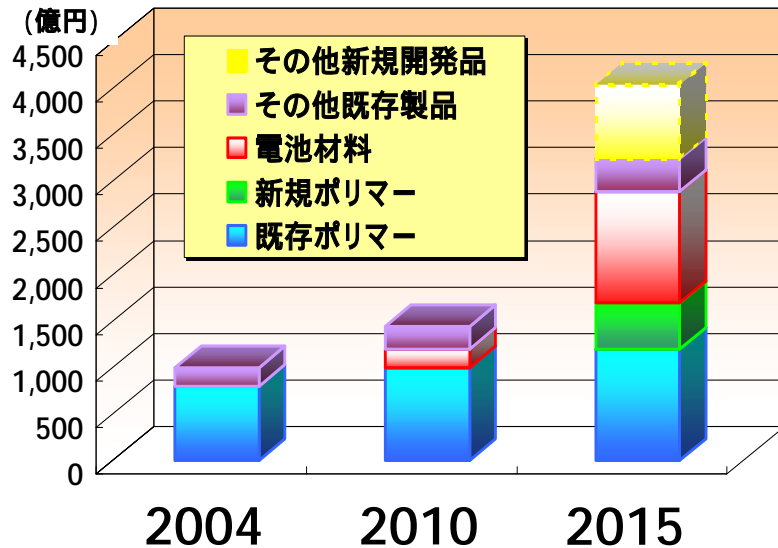
強い個々の事業



time

事業拡大への期待

● 例えば、自動車分野の売上見通し



ポリマー事業 革進-Phase2 戦略投資案件

黒崎・中国PCチェーン計画

- コスト競争力・低環境負荷・高品質を備えた最新の自社技術を採用
- MEP社の販売力・技術力を生かしてアジアでの圧倒的No.1を狙う

華北・北京

PC : 6万t/y

BPA : 10万t/y

SINOPEC JV

(両者でFS中)

北九州・黒崎

PC : 6万t/y

DPC : 10万t/y

MCC

(投資決定)

MEP:三菱エンジニアリングプラスチックス

機能性樹脂 米国拠点増強

- 自動車向け軟質系コンパウンドの旺盛な需要に対応して、1ライン増強

PP鹿島30万t新系列増設

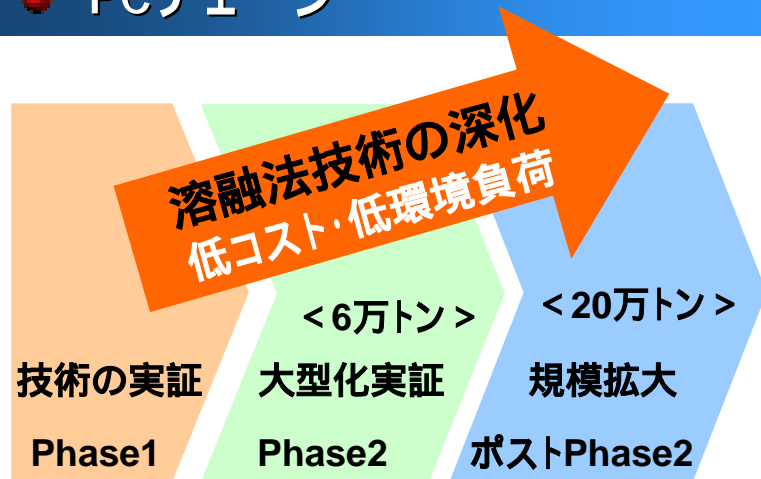
- 事業体質強化の為、自社技術の大型系列を建設

MYTEX社 100%化

- PPコンパウンド戦略の一元化
- 世界4極体制を早期確立

ポリマー事業 次のステージへ

● PCチェーン

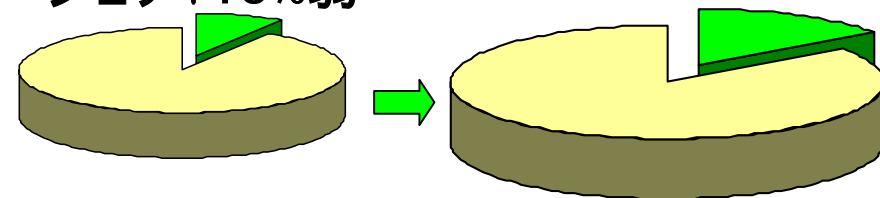


● ポリプロピレン

自動車用PPコンパウンド世界市場

シェア: 10%弱

目標: 15%



グローバル材の供給を基軸に

● PCチェーン

- 溶融法技術の深化で、更なるコスト削減・環境負荷低減へ

● ポリプロピレン

- 自動車用PPコンパウンドのグローバルプレゼンス拡大へ

内容

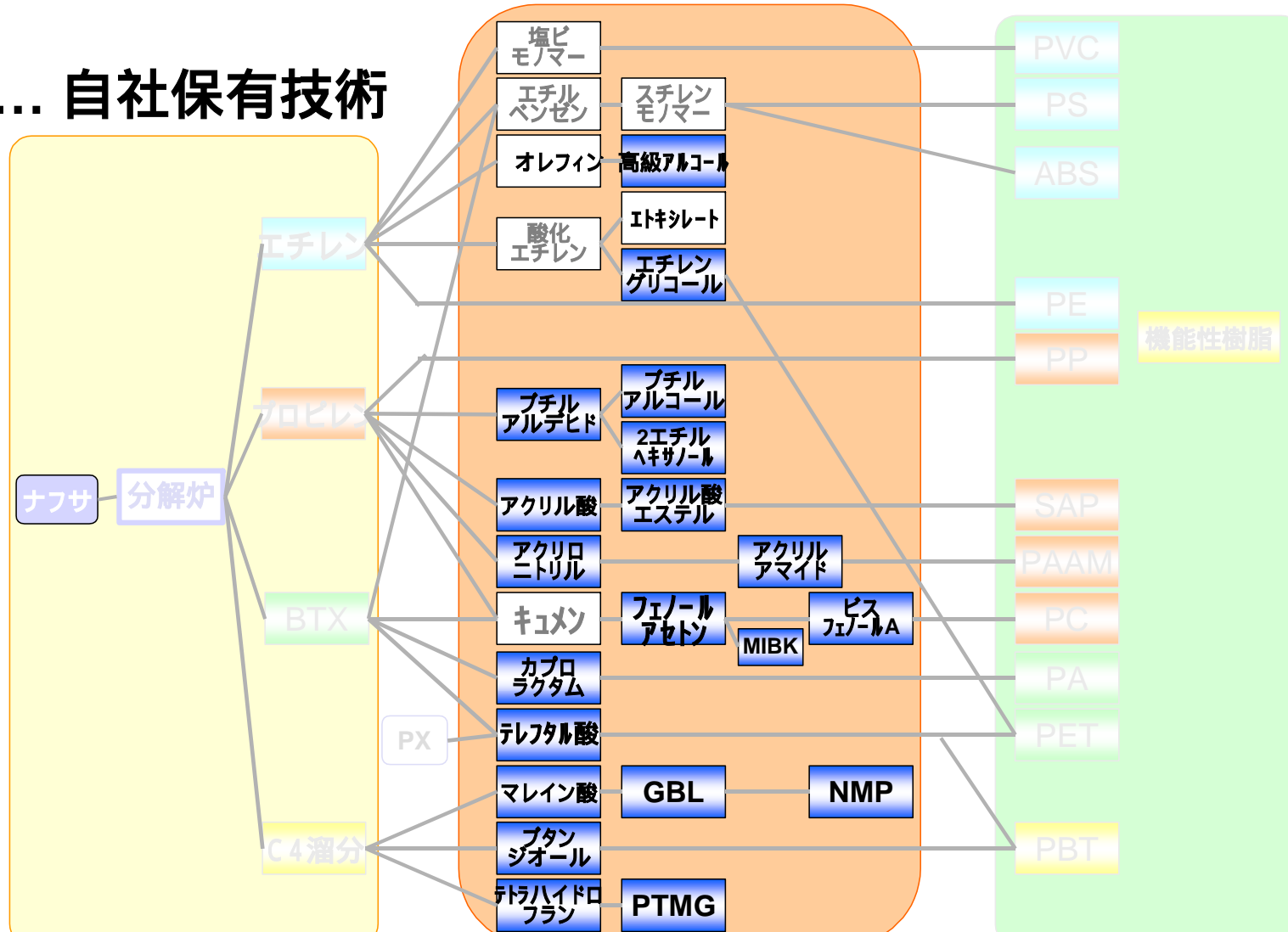
- 革進-Phase2 石化セグメント基本方針
- 石化セグメントの全体戦略
- **各事業の戦略とトピックス**
 - ポリマー事業
 - モノマー事業
 - オレフィン・アロマ
- まとめ

～ 質疑応答 ～

モノマー事業の技術力

- 世界トップに伍するプロセス・触媒・コストダウン技術

製品名... 自社保有技術



モノマー事業の海外展開

- トップクラス技術と事業展開力を背景に、伸びる需要に対応してグローバルに拡大

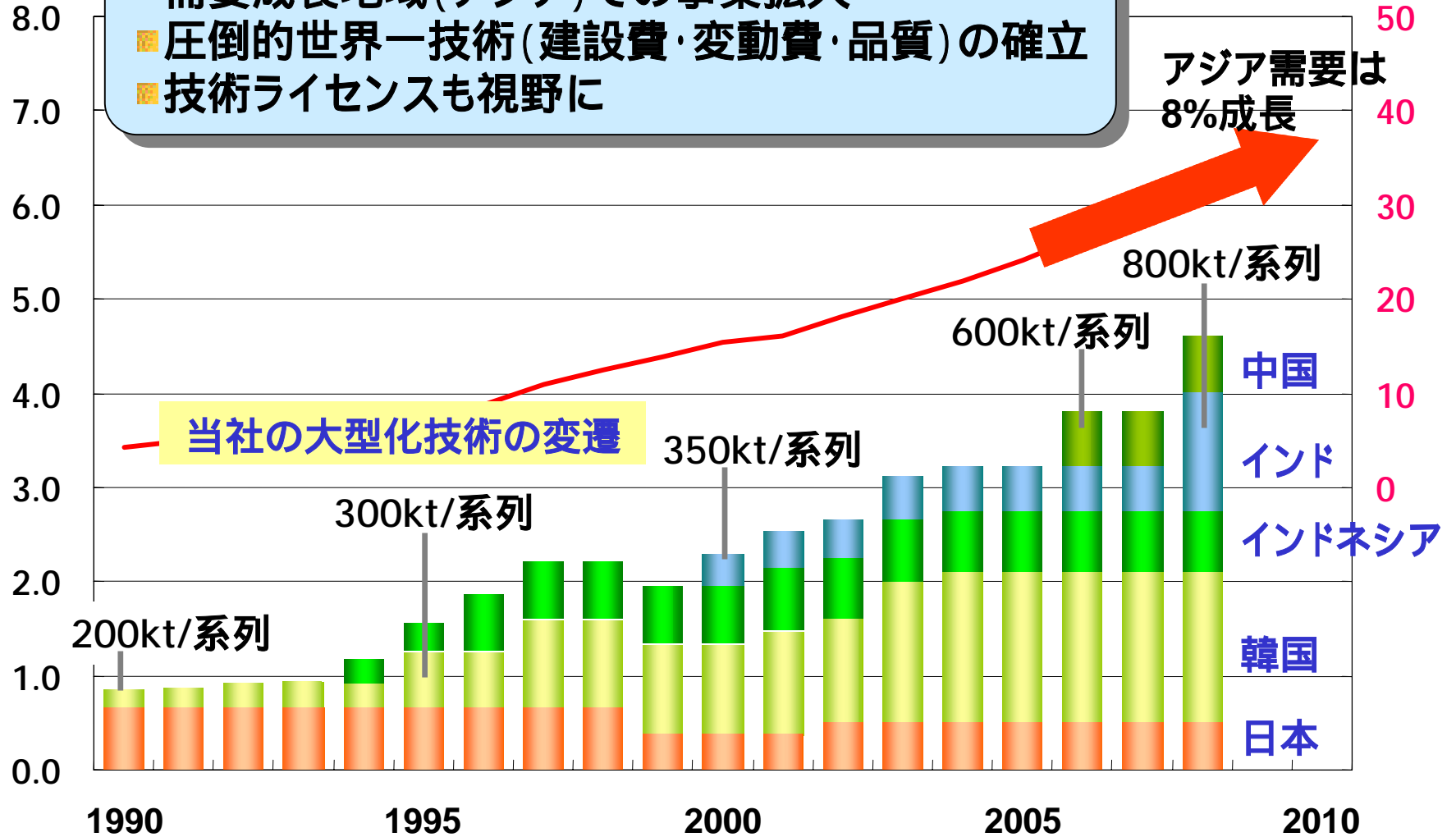


テレフタル酸の事業戦略

当社能力
百万t/年

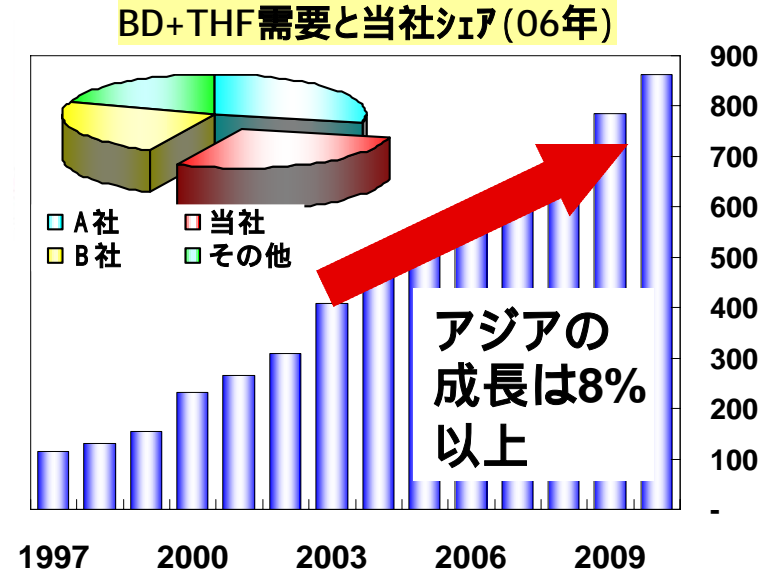
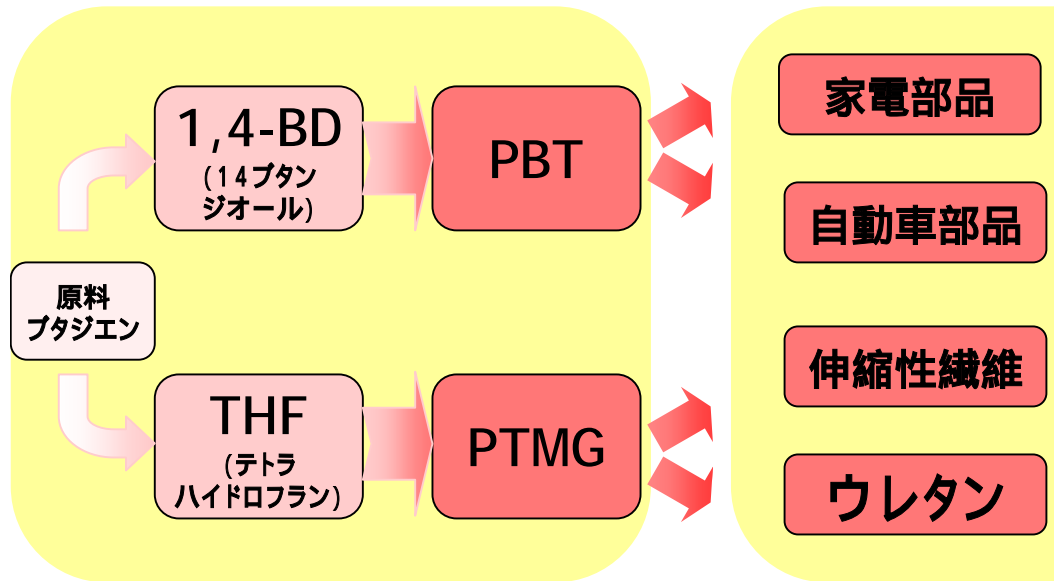
アジア需要量
百万t/年

- 需要成長地域(アジア)での事業拡大
- 圧倒的世界一技術(建設費・変動費・品質)の確立
- 技術ライセンスも視野に



中国
インド
インドネシア
韓国
日本

1,4-BD ~ PTMGチェーンの事業戦略



自社技術の一貫チェーン展開

お客様の厳しい品質要求

伸びるアジアで事業拡大

- 触媒技術
- ブタジエン原料法
- PBT連続重合

低コスト
安定性
低コスト

自社技術による一貫生産と
ダウンストリームのマーケティング力で
成長するアジアNo.1に

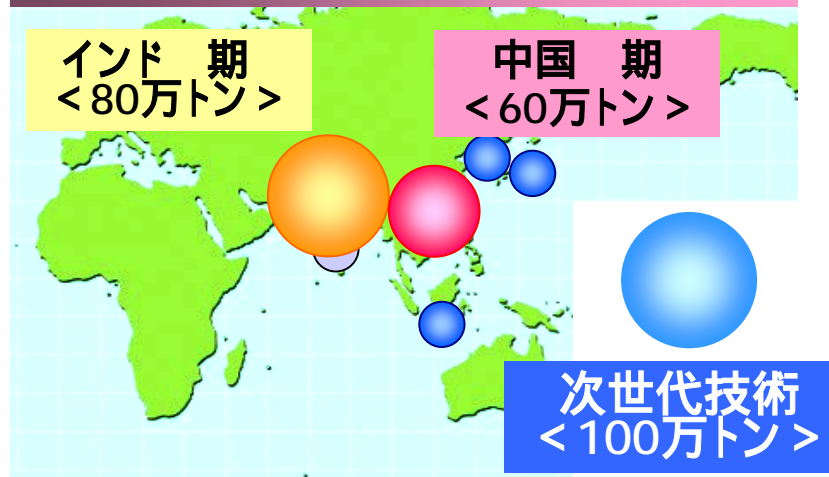
環境変化に対応した事業の選別

- 革進-Phase1・2を通じた諸施策

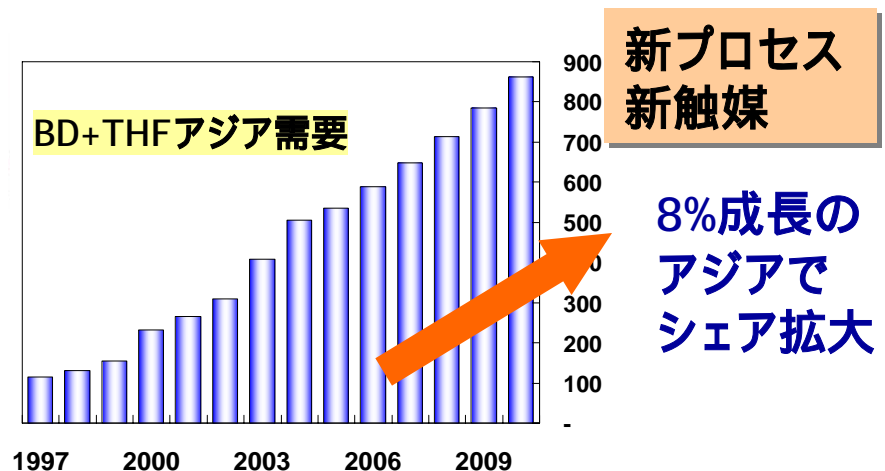
事業撤退	メラミン
	ドバノール(高級アルコール)
	新日本フェノール・ビスフェノール
	ソフトアルキルベンゼン
	ユカセラヤ社(SM)
系列停止	カプロラクタム
	無水フタル酸
	テレフタル酸(松山)
保有株式売却 (部分)	インタック社(不凍液事業)
	ダイヤニトリックス社(AN・AAM)

モノマー事業 次のステージへ

● テレフタル酸



● 1,4-BD ~ PTMGチェーン



● テレフタル酸

- 世界トップの次世代技術で更なる事業拡大へ

● 1,4-BD ~ PTMGチェーン

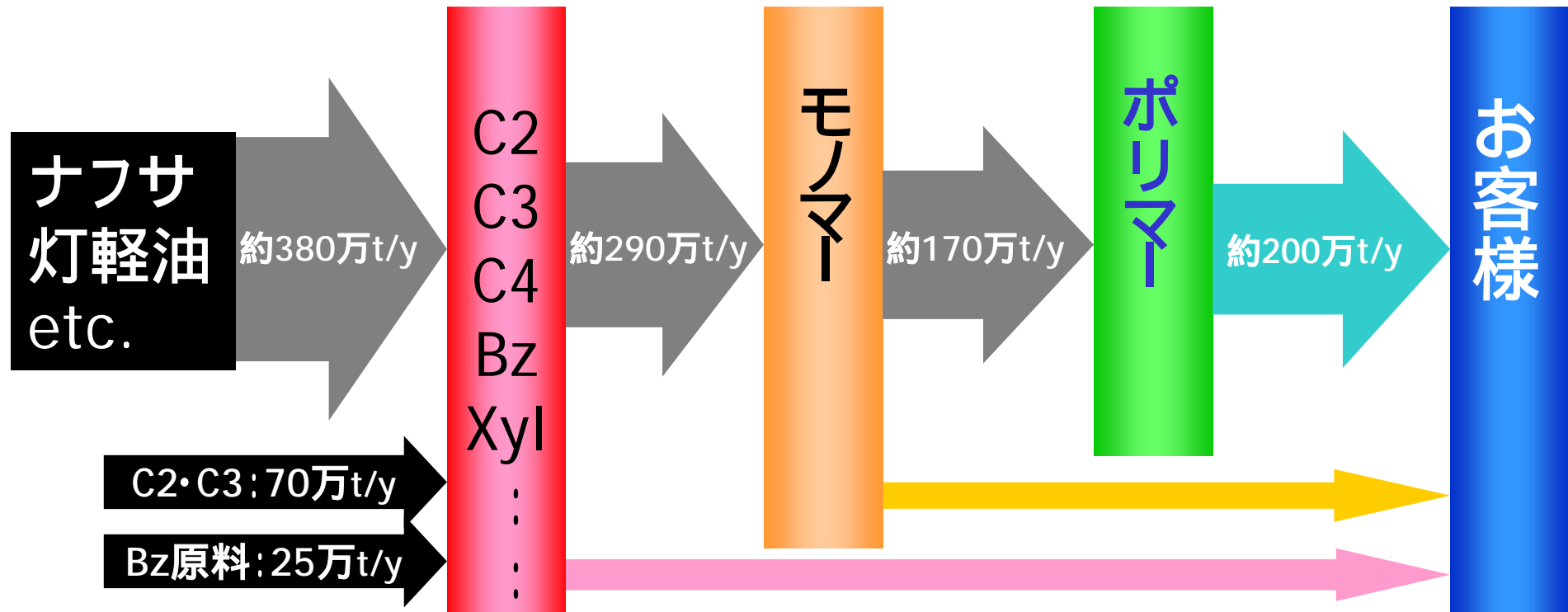
- 新プロセス・新触媒でアジアでの成長拡大

内容

- 革進-Phase2 石化セグメント基本方針
- 石化セグメントの全体戦略
- **各事業の戦略とトピックス**
 - ポリマー事業
 - モノマー事業
 - オレフィン・アロマ
- まとめ

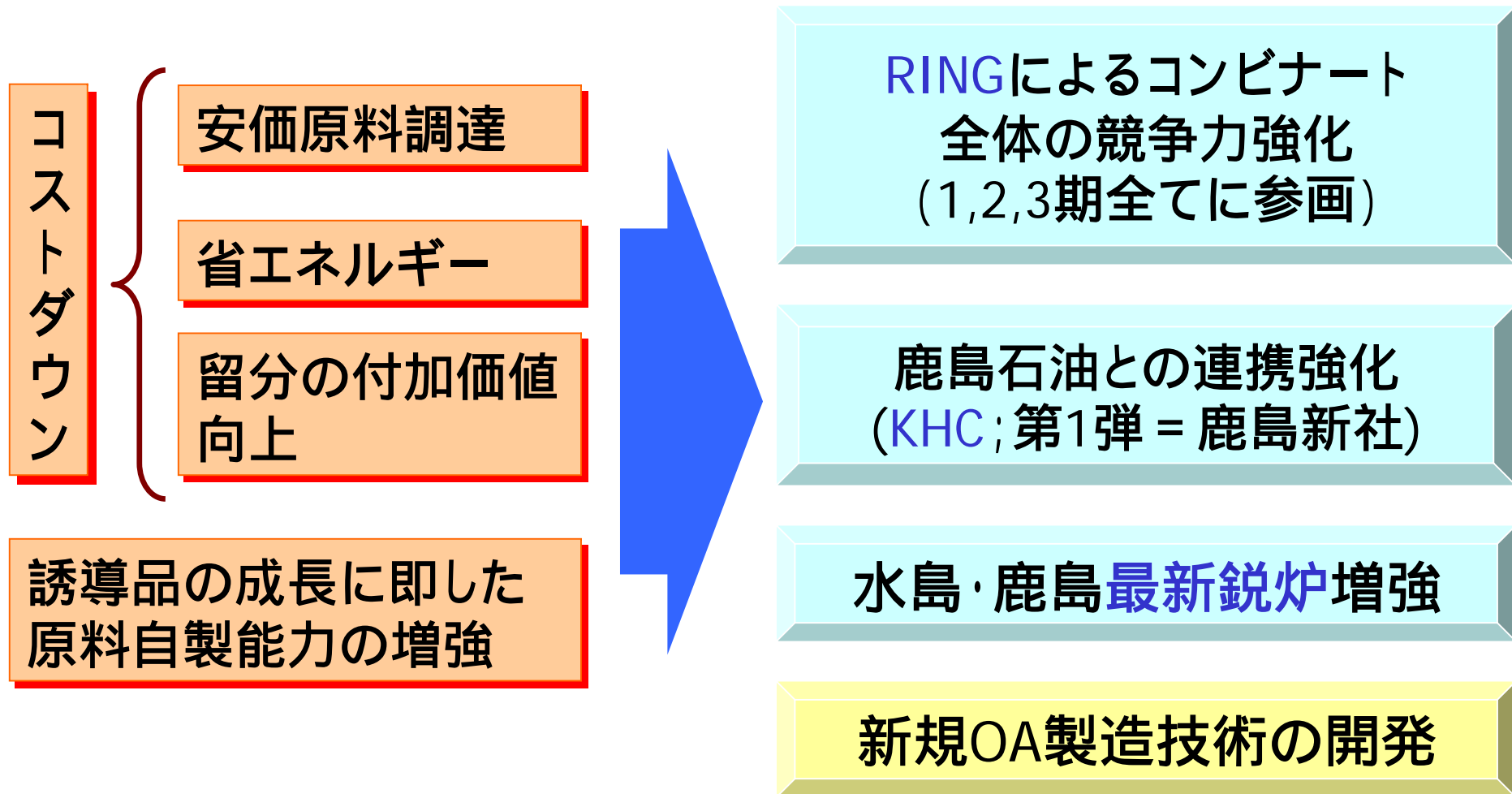
～ 質疑応答 ～

国内事業の特徴は、一貫したサプライチェーン

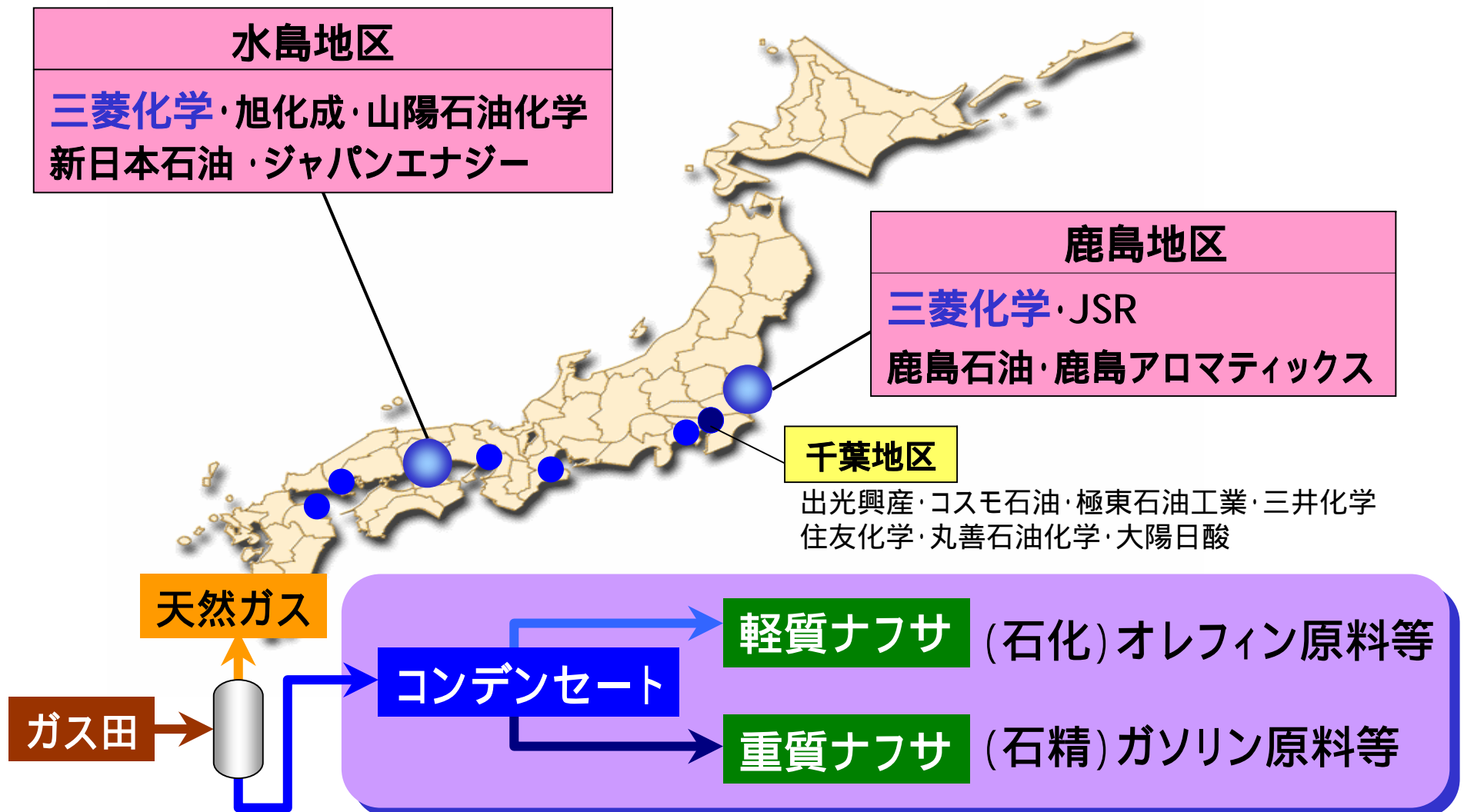


- 産業分野の様々なニーズに対して、多様な製品を安定供給する事で、国内をトータルにサポート
- モノマーやポリマーの基盤であるオレフィン・アロマセンターをたゆまず強化する

オレフィンアロマセンターの強化策

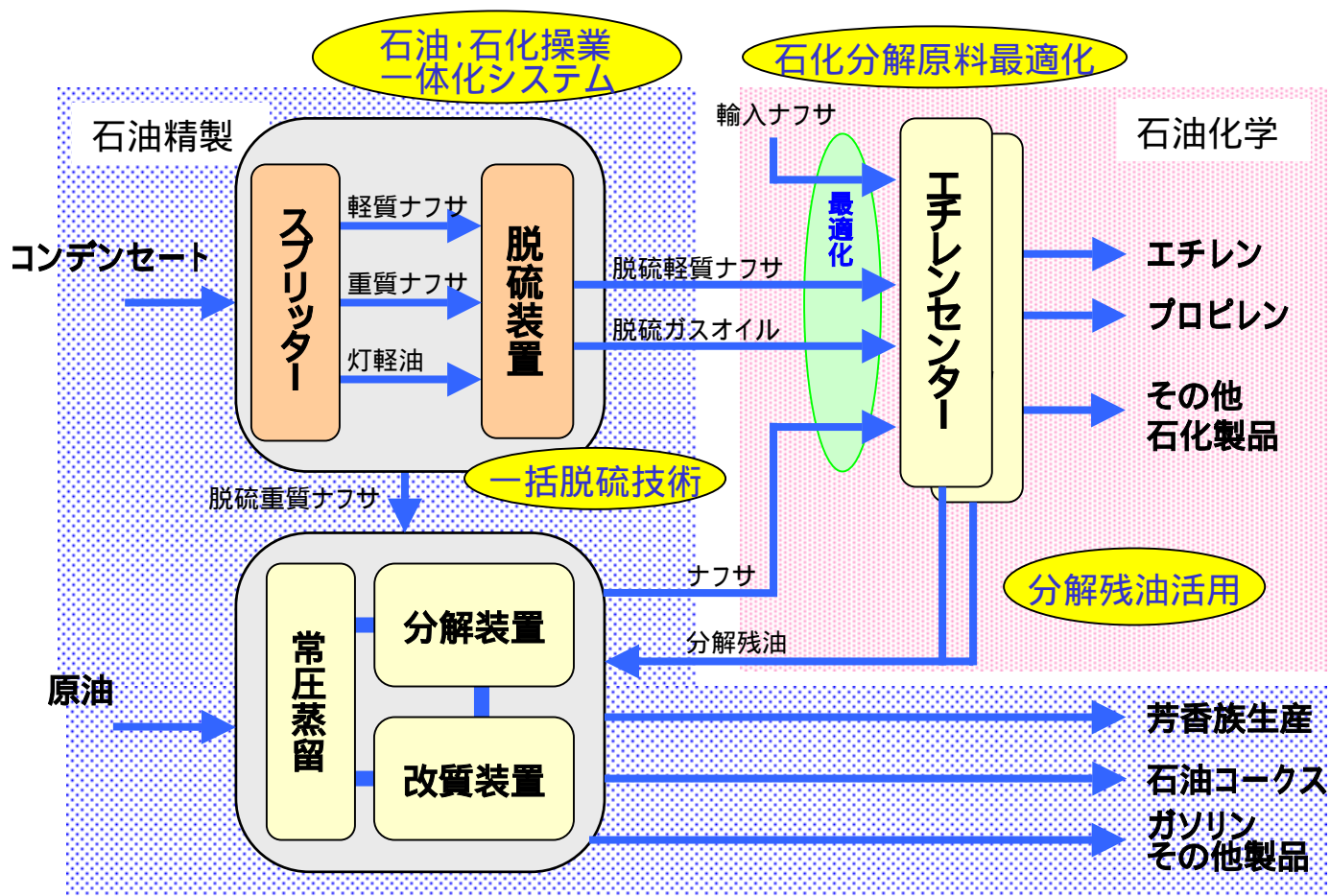


第3期RING (石油精製高度機能融合技術開発)



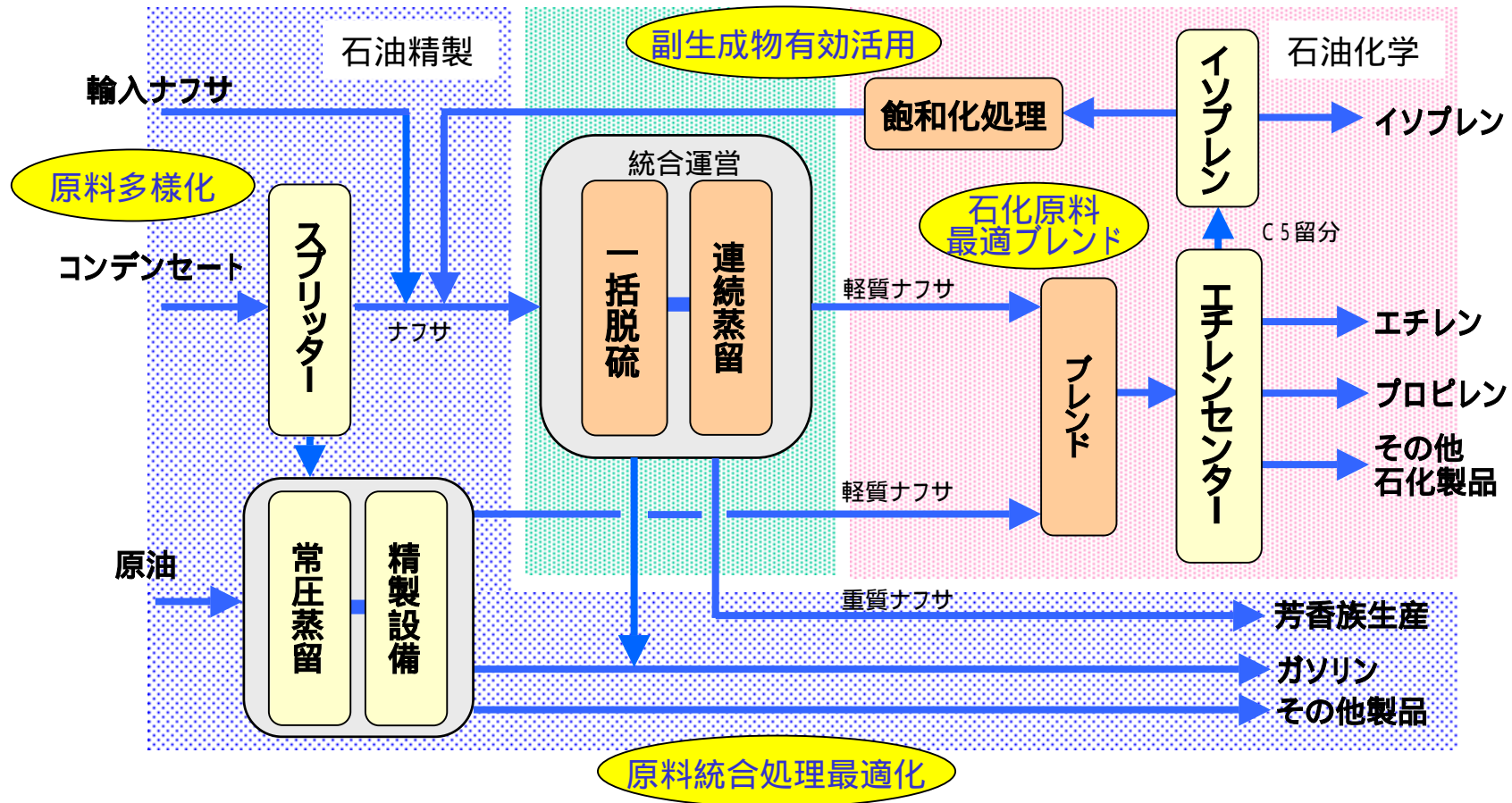
コンビナート原料多様化最適供給技術開発(水島地区)

コンビナートの石油・石化原料多様化、ベストミックスのため、新たにコンデンセートを精製処理し、ナフサやガスオイル等のエチレンクラッカー原料および芳香族生産のための改質装置原料を高效率で安定的に製造し、最適供給する技術を開発する。併せて、コンビナート全体最適化のための効果的な留分活用の**研究・開発**を行う。



石油・石化原料統合効率生産技術開発(鹿島地区)

石油・石化製品の効率的な統合生産に向けて、原料多様化の一環として処理するコンデンセートからのナフサおよび石化留分を一括して脱硫し、石油精製における芳香族生産、ガソリン基材生産、および石油化学におけるエチレン、プロピレン生産の原料となるナフサ留分を効率的に連続蒸留により最適分離・供給する一連の**技術の開発**を行う。

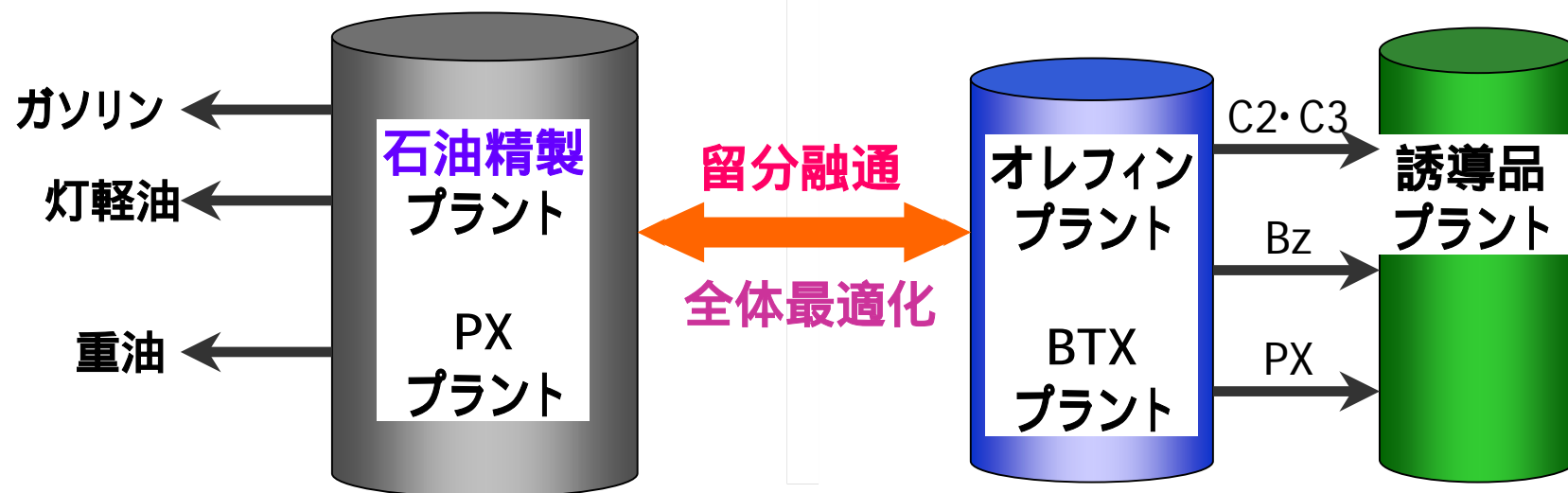


鹿島 hidrocarbon センター (KHC)

新社設立 (第一弾)
[コンデンセートから軽質ナフサ・アロマ製品生産]
ジャパンエナジー・三菱化学; 2007年末完成



会社の垣根をなくして見ると・・・鹿島 hidrocarbon センター構想



原料多様化・プロピレン増産

コストダウン
原料自製能力増強



入手容易な原料の拡大
(重質ナフサ・灯軽油等)

分解マイルド化により
プロピレン増産

鹿島・水島
オレフィンセンター
分解炉増強
鹿島 2006年1月稼動
水島 2008年初頭完成

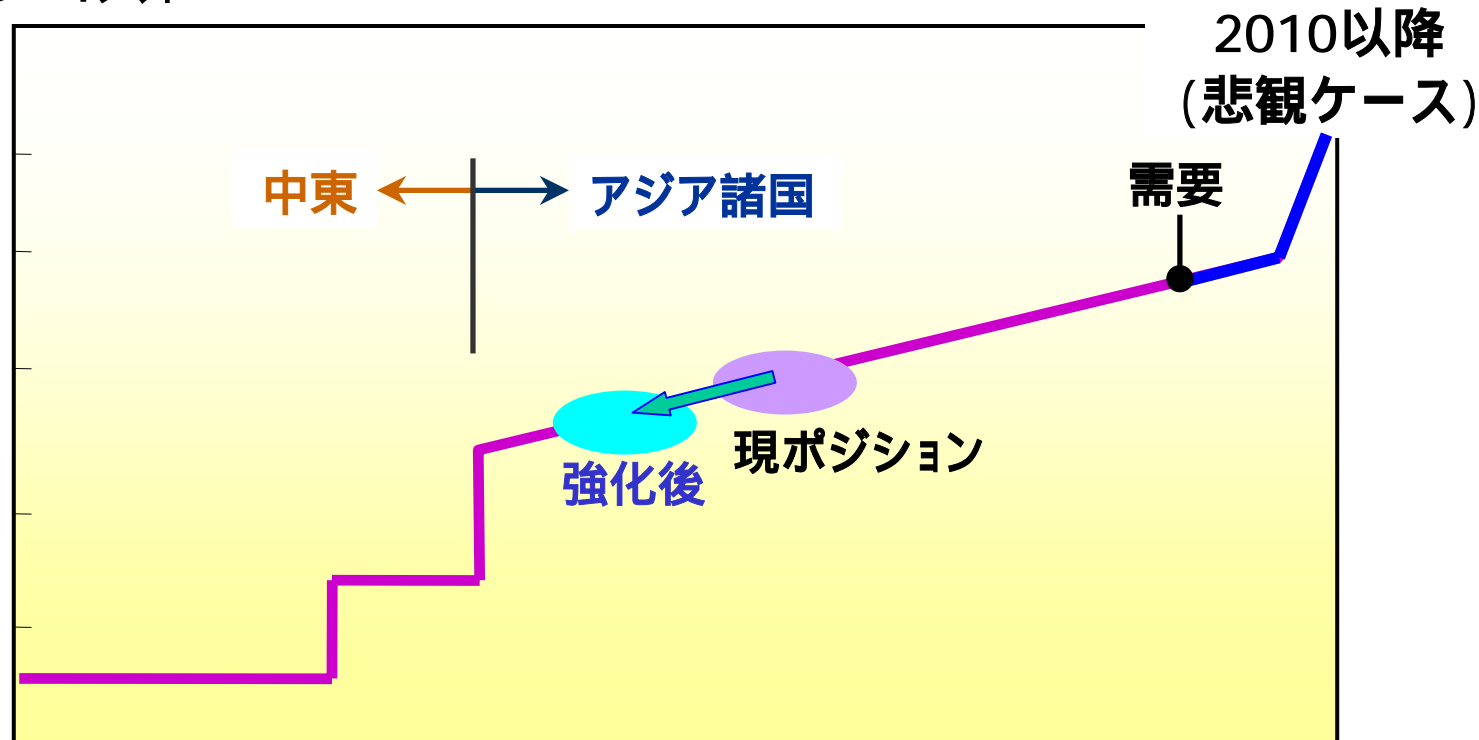


完成した鹿島新炉

オレフィン・アロマ 次のステージへ

エチレンコスト

\$/T



エチレン積算能力

当社推定)

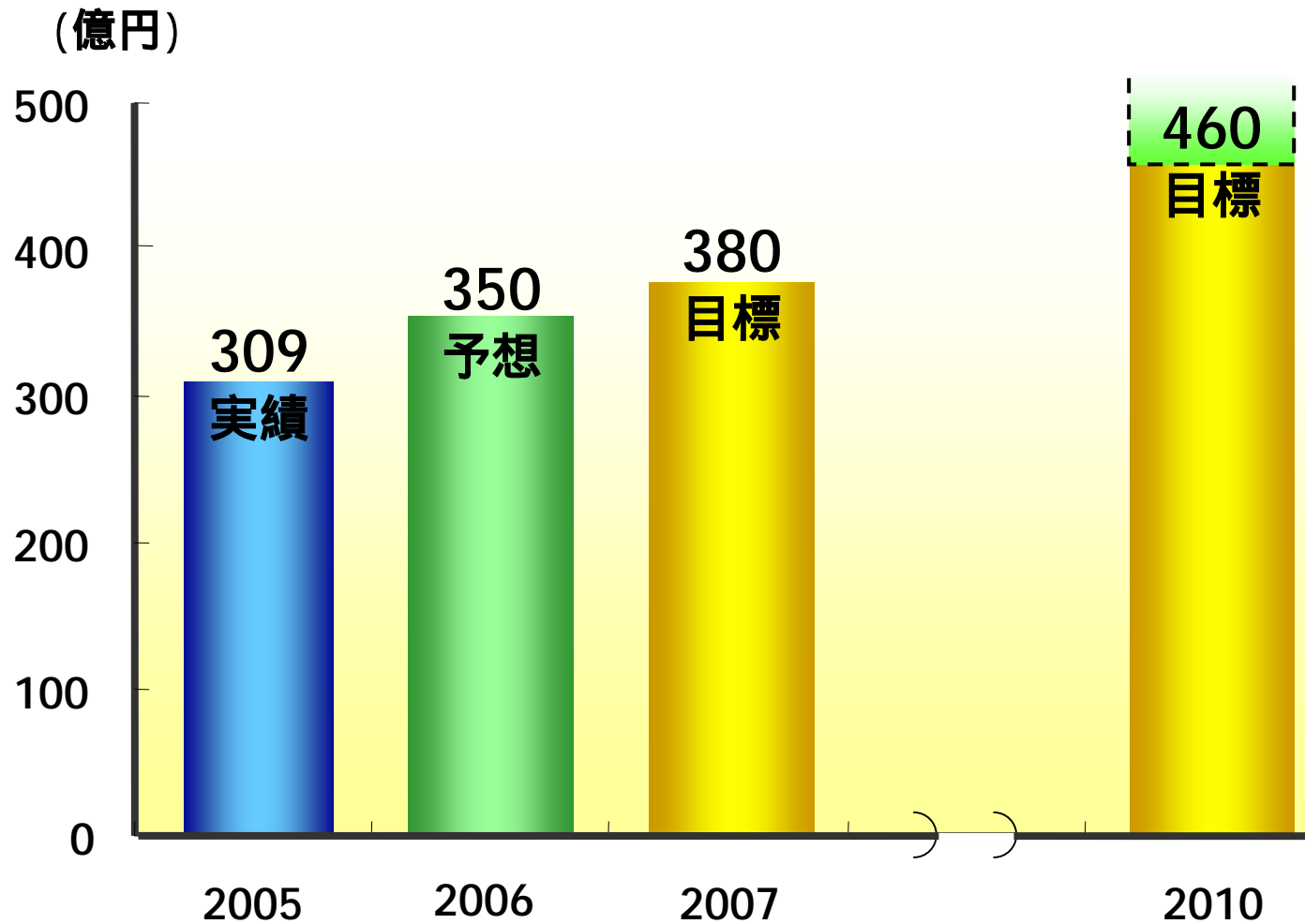
- コンビナート連携(石油精製・石油化学・精密化学)の強化

内容

- 革進-Phase2 石化セグメント基本方針
- 石化セグメントの全体戦略
- 各事業の戦略とトピックス
 - ポリマー事業
 - モノマー事業
 - オレフィン・アロマ
- まとめ

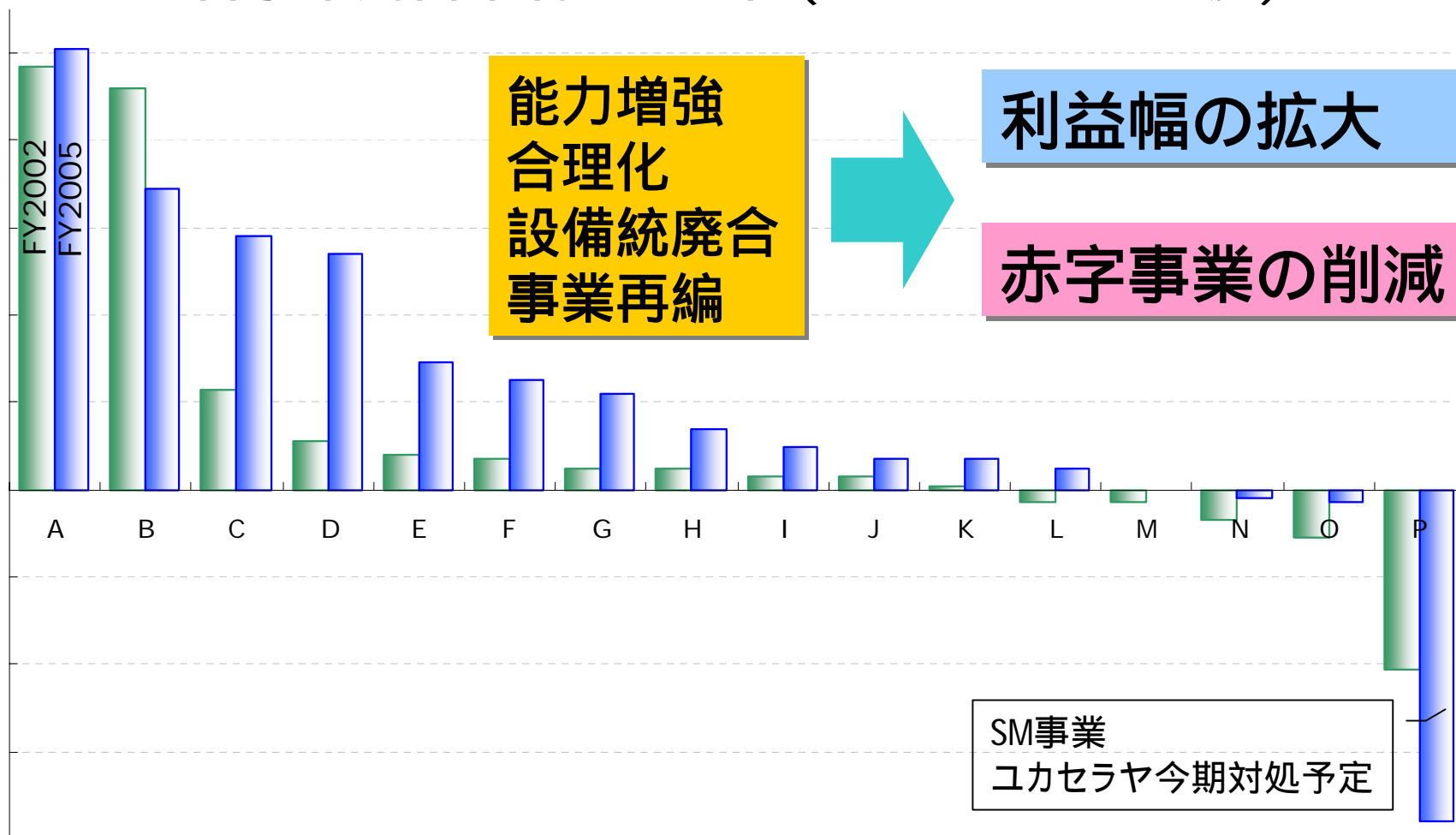
～ 質疑応答 ～

革進-Phase2 営業利益目標

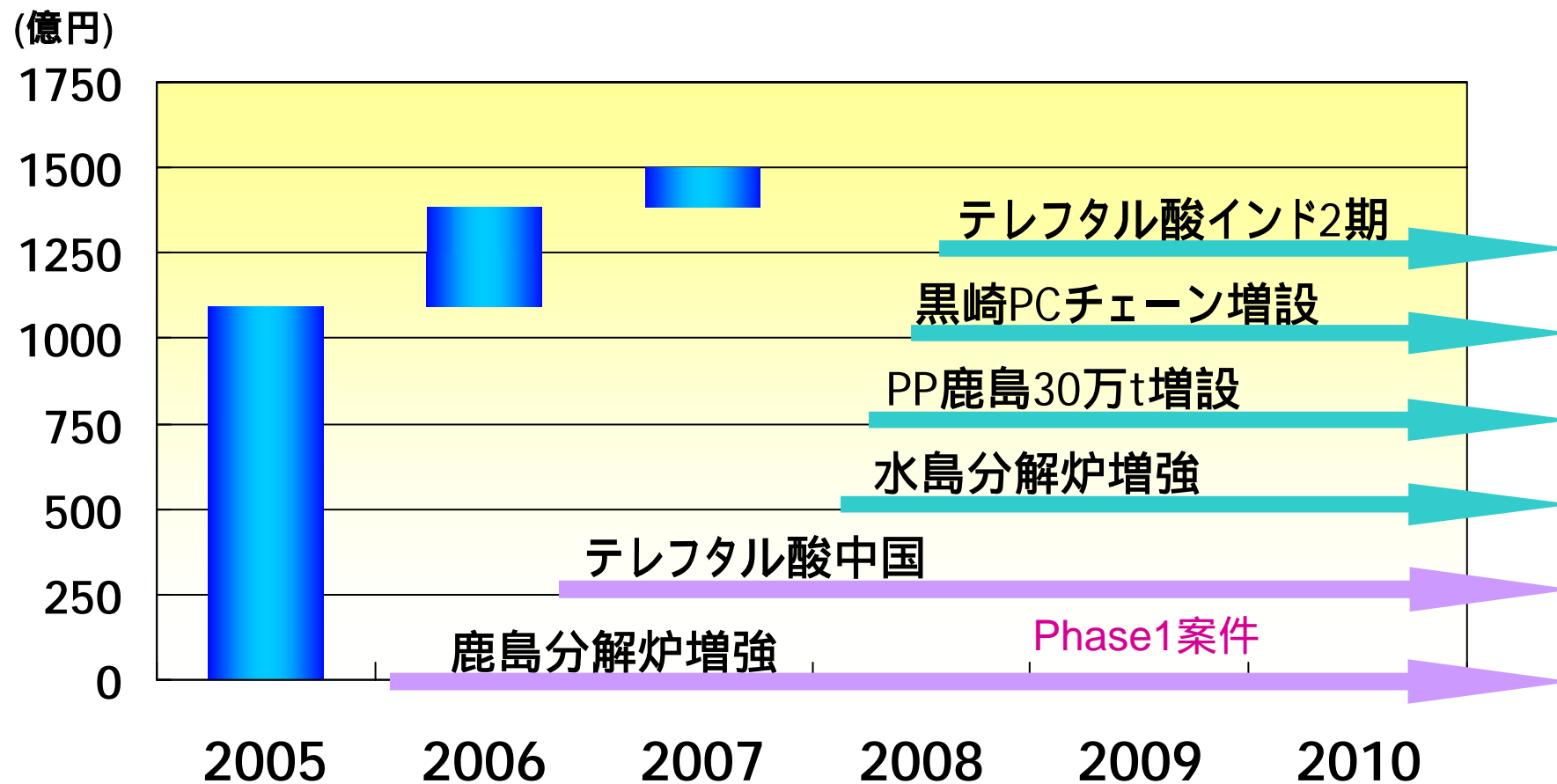


個々の事業強化への取り組み

各事業別営業利益の変化(2002→2005年度)

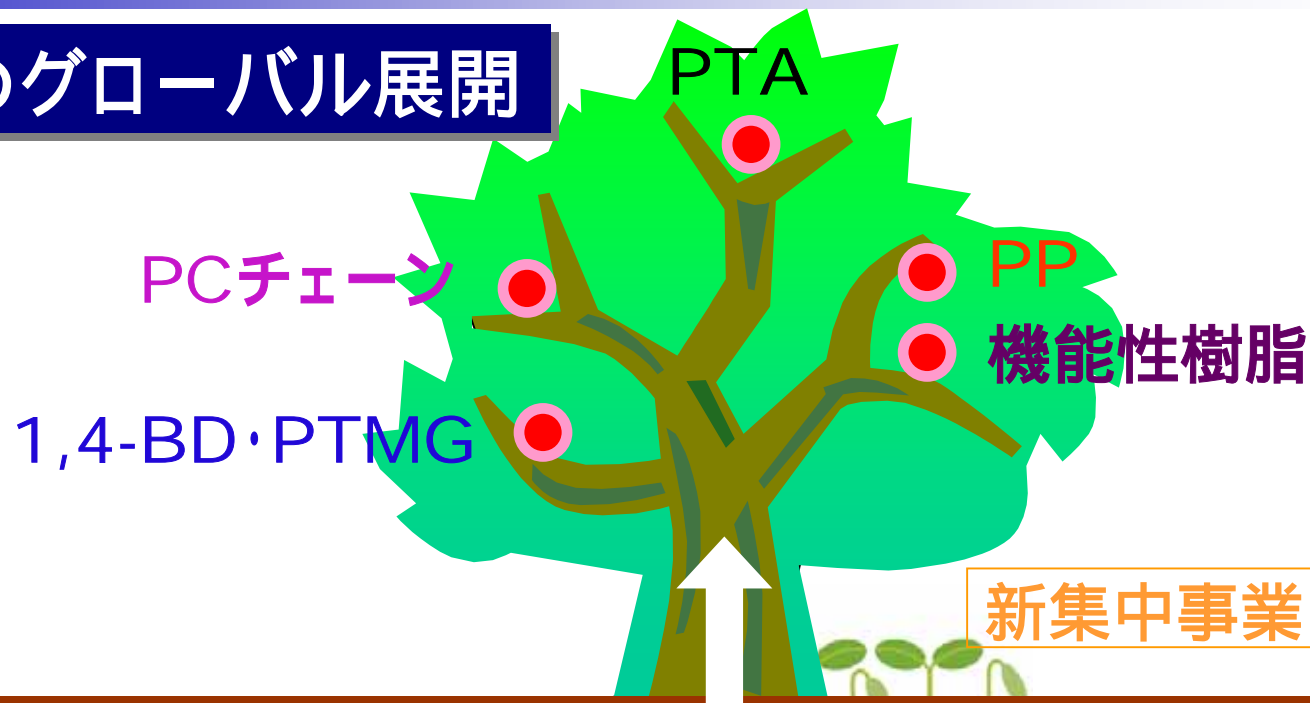


革進-Phase2 期間中の投資配分と稼動時期

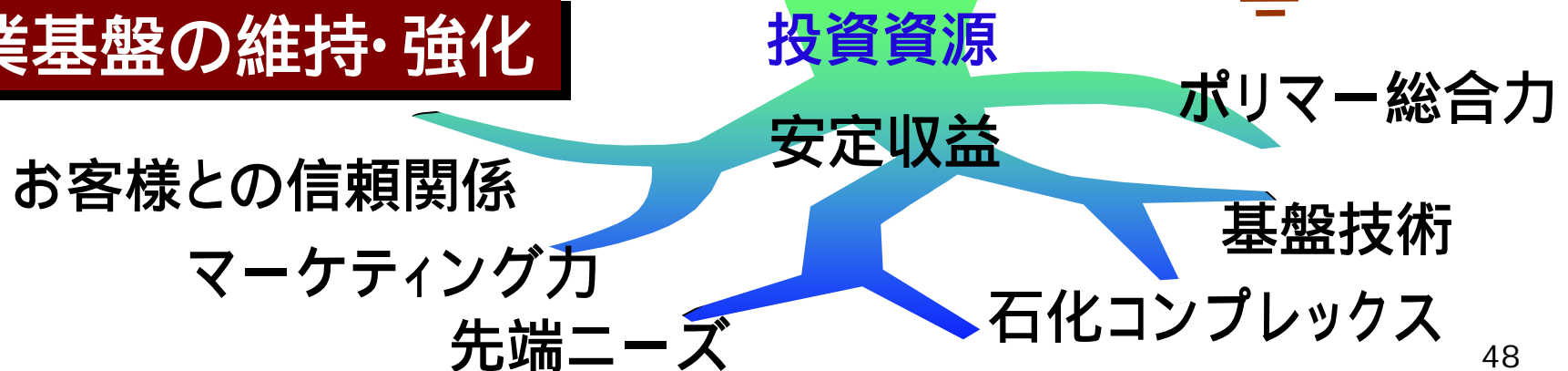


石化セグメント戦略のまとめ

集中事業のグローバル展開



事業基盤の維持・強化



本説明会および本資料における見通しは、現時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、上記業績予想と大きく異なる可能性があります。当社グループは石化製品、炭素・無機製品、情報電子関連製品、医薬品、樹脂加工品等、非常に多岐に亘る事業を行っており、その業績は国内外の需要、為替、ナフサ・原油等の原燃料価格や調達数量、製品市況の動向、技術革新のスピード、薬価改定、製造物責任、訴訟、法規制等によって影響を受ける可能性があります。但し、業績に影響を及ぼす要素はこれらに限定されるものではありません。